

支極秘四九〇号

財政総長ニ決シタル周ヲ改メ李思浩ヲ入ルニ至リタル消息トシテ政府某要人ノ語ル所ニ依レハ過日段祺瑞ハ傅良佐ヲ大總統ノ許ニ派遣シ周ニ対スル反対多キヲ以テ再考セラレテハ如何トノ意見ヲ具申セシメタル処大總統ハ其真偽断定シ難キニヨリ斬総理ノ意見ヲ確メラレ度旨ヲ要求セルヲ以テ傅良佐ハ転シテ之ヲ斬ニ告ケタルニ斬ハ總統ノ言ヲ以テ其儘之ヲ段ニ報告セハ其忌避ニ触ルルヲ恐レ段ニ報告スルニ徐總統モ亦之ト同意見ナル旨ヲ以テセシメタリ茲ニ於テ段ハ大ニ喜ヒ直ニ王祝三及曾毓雋ヲ招キ之ヲ安福派ニ伝ヘシメタリ

翌日李參議院議長及劉參議院副議長ハ斬総理ヲ訪ヒ念ノ為之ヲ確カメタル処斬総理ハ告クルニ実ヲ以テシ且自分ハ何処迄モ周自吝總長タルノ意志ニ変化ナキヲ答ヘタリ

段祺瑞是ヲ聞キテ斬総理及傅良佐ノ不信ノ行為ニ対シ大ニ忿怒セリト遇々吳光新ハ斬総理ノ招電ニ接シ此時帰京セニヨリ斬総理ハ周自吝總長ニツキテ困難ナル事情ニ立到リシ経過ヲ述ヘ財政ハ暫ク自分（斬総理）ニ於テ兼任スヘキニヨリ吳光新ニ陸軍總長タランコトヲ交渉セルニ吳ハ一日

熟考シタル後陸軍總長タルコトヲ断リ且斬総理カ財政ヲ兼

ヌルハ上下（？）ノ目標トナリ彼ノ将来ノ為メ有利ナラサル理由ヲ述ヘ斬総理モ亦八方塞カリノ結果事情已ムヲ得ス遂ニ周自吝ヲ止メ李思浩ヲ以テ之ニ代フルコトニ決心セリト云フ

右ノ結果總統府側ニテハ財政總長ノ椅子ヲ徐恩元ニ与ヘントシ安福側ニテハ曾宗鑑ヲ擬セントシ互ニ運動中ナリ安福派ノ意見ハ前回報告セシ如ク李思浩ハ幹部会ニ於テ承認ト決シ張志譚及夏寿康ハ議員ノ自由意思ニ任スコトニ決シタリト云フ

一三九一　十二月三日

（在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報））

内閣各部總長任命大總統令發布ノ件

第一五三三号　（十二月四日接受）

十二月三日附大總統令ヲ以テ前電顔触ノ通各部總長ノ任命發布田文烈ハ農商總長兼任ヲ命セラレ又次長ニハ何煜内務二（脱）財政ニ傳獄棻（同時ニ總長代理）教育ニ姚國楨交通ニ各任命アリ又同日附ヲ以テ周自吝幣制主裁ニ特任セラレタリ

（十二月十日接受）

（十二月九日）
在広東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

一三九二　十二月九日　上海広東漢口各總領事奉天へ転電セリ

旧国会ノ職權自由行使ヲ段祺瑞ニ於テ断行シ
和平ヲ達成スル様日本公使ヨリ段ニ勸告方唐
主鍔申出ノ件

第二〇〇号　（十二月十日接受）

本官發在支公使宛電報第一七三号
十二月八日唐宝鍔本官ヲ來訪シ同人一個人ノ希望トシテ左ノ通り語レリ

南北問題ニ閼シ孫文ハ北京政府ニシテ旧国会ノ職權自由行使ヲ認ムルニ於テハ西南護法ノ目的ハ全ク達セラルベキヲ以テ其他ノ法律及事實問題ハ無条件ニテ妥協スベシトノ意嚮ヲ有シ既ニ段祺瑞トハ相當ノ了解ヲ有シ且下双方人ヲ介シ其実行方法ノ協議中ナリ右孫文ノ意見ハ唐紹儀モ之ヲ尊重シ国会ハ勿論西南各省ニ於テモ之ニ反対スル理由ナキヲ以テ北京政府ガ非常ノ決心ヲ以テ単ニ此ノ一事ヲ断行セバ

他ノ實際問題ノ情実ニ拘束セラルコトナク却テ南北ノ周囲ヲ速成スルコトヲ得ベシ唯懸念ニ堪ヘザルハ段ガ其周囲

附　滿洲地方動靜

一三九三　二月六日　（在吉林森田領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報））

吉林奉天出身參議院議員ガ国会ニ提出セル孟督軍查弁案ニ閼シ同督軍外交顧問來話ノ件

第九号　（二月七日接受）

在支公使ヘ左ノ通　極秘

第三号
一四　中國内政関係雑件（附）　一三九二　一三九三

一四 中国内政関係雑件（附）一三九四

一五二八

ニ依レバ孟督軍ハ之ヲ張督軍ノ差金ニ出ヅルモノトシ大ニ憤懣ノ情ヲ洩ラシ居レリトノ事ナリシニ付本官長春兼勤ノ挨拶旁々直ニ孟督軍ヲ訪ヒタルニ督軍ハ本官ニ対シ該査弁案ニハ奉天出身議員ノ関係シ居レル事及右議員ガ北京奉天間ヲ往復セル事竝張作霖吳俊陞等ガ吉林督軍ノ椅子ヲ狙ヒ居ル事等ニ顧ミ該案ノ後援者ノ何人ナルカハ略々推察ニ難カラズトシ張ガ孟ヲ蹴落サントセル陰謀ニ出ヅル旨ヲ暗示シ尚進ンデ孟ハ張ト自己トノ関係ハ普京以来融和セルガ如ク思ハレ居ルモ右ハ無論表面ノ事タルニ過ギズ今回ノ査弁案ニ付大總統ハ張ニ対シ本件ノ円満解決方ヲ一任シ来リタルニ付張ハ誠意ヲ以テ自己ノ地位擁護ニ尽力スベキ旨ヲ以テセルモ之張ノ本意ニ非ズ張ハ大總統ノ命アリタルニ依リ已ム無ク此措置ニ出デタルモノノ如シト内話セリ

要スルニ該査弁案ハ年来ノ目的タル吉林督軍更迭ヲ実現シ得ズシテ却テ孟、張両人ノ関係ヲ一層阻隔セシメタルヤノ感アリ今回張ガ如何ナル措置ニ出ヅルヤハ不明ナレドモ万

一吉林督軍ノ更迭ヲ行ヒ張ノ部下カ孟ニ取ツテ代ルコトトモナラバ張ノ宿望ハ茲ニ達セラルコトトナリ從來両人ノ誤解ガ寧口當方ニ取り利用ニ便ナリシニ反シ事每ニ張一流大臣奉天へ転電セリ

第一五一号
一三九四 六月十六日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
吉林督軍更迭説並「セメノフ」ノ行動ニ關シ
林長官ヨリ張巡閱使ニ忠告ノ件
（六月十七日接受）

林閏東府長官ヨリ左ノ通
吉林孟督軍ノ地位ヲ動サントスル情報アリ且右ニ対シ多少圧力ヲ加ヘントスルヤノ風説モ有之ニ付本官ハ張巡閱使ニ面会ノ序目下北京政府モ不安ノ状態ニアリ南北統一尚未タ確タル目當ノ付カサル際ニモアリ加フルニ中央政府及地方

トモ財政ノ状態頗ル困難ナル時ニ当リ或ハ満洲地方ニ兵力ヲ動サザルヲ得ザルコトトモナラバ偶々南方ニ政府反抗ノ口実ヲ与ヘズトモ限ラザルニ付実力ヲ以テ孟督軍ヲ圧迫スト云フカ如キハ當分見合サルルコト然ヘキ旨注意セリ又張巡閱使ハ蒙古方面ニ於ケル「セメノフ」ノ行動ニ余程神経ヲ惱マシ居ルヤニ見受ケタルニ付之ニ対シテモ現在支那政府トシテ兵力ヲ動サントスルカ如キコト有之ニ於テハ之亦面白カラズト思考セラルニ付万ニモ「セメノフ」ノ行動ニシテ打捨テ置キ難キコトモアラハ赤塚總領事ニ其ノ趣申聞ケラレタキ旨忠告シ置キタリ

右閣下ニ報告スルト共ニ閣下ヨリ總理大臣ニ御伝達ヲ請フ在支公使ヘ電報セリ

一三九五 六月十六日 濱田閏東軍參謀長ヨリ
福田參謀次長宛（電報）
吉林督軍ノ更迭ヲ強行ノ場合ニ対シ日本側モ
邦人保護ノ準備ノ必要アル旨稟報ノ件
（六月十八日外務省接受）

第五二号
一三九六 六月十九日 在吉林森田領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
孟督軍力張作霖ノ圧迫ニ対抗スヘシトノ内話
ニ閔スル件
（六月二十日接受）

在支公使宛第二二号ニ閔シ
孟督軍ハ十九日本官ニ対シ張作霖ノ圧迫ハ漸次其ノ度ヲ加ヘ來レル處此ノ際甘ジテ張ニ屈伏スルコトハ到底出来ザル所ニテ自分ニハ三万ノ手兵ノ外東清線一帯ニ於ケル數千ノ馬賊等モ又充分利用スルノ聯絡アルヲ以テ奉天軍トノ对抗ハ敢テ恐ルル所ニアラザルモ愈々衝突スルコトモナラバ地理其ノ他ノ関係上種々日本側ノ指示ヲ俟タザルベカ（脱）支那政府カ張督軍ノ強要ニ依リ孟督軍ヲ更迭セハ吉林軍隊

一四 中国内政関係雑件（附）一三九七 一三九八

一五三〇

エラレタント語レルガ右督軍ノ決心ハナカナカ堅キモノノ如ク在哈爾賓總領事發本官宛電報第一〇号ノ通り各地方駐在ノ兵ヲ吉林ニ集中シツツアリ但シ同電中道尹其ノ他地方官ノ吉林ニ集マリタルモノアルハ郭省長ノ令嬢ノ婚礼アリ其ノ祝ノ為メナリ

右北京奉天哈爾賓齊々哈爾賓東厅長官へ転電セリ

一三九七 六月十九日 浜面閔東軍參謀長ヨリ
（電報）

吉林督軍ノ更迭ハ平穏ニ行ハルベキニ付対戦

準備ヲ行ハサル旨張作霖談話ノ件

（六月二十一日外務省接受）

関電第五三号

奉天町野電

十八日總領事ト共ニ張巡閱使ト會見セル際張氏ノ談左ノ如

時局紛糾セルノ時予ハ自ラ好ンテ事ヲ醸スカ如キコト無シ

全ク中央政府ニ於テ吉林人民ノ彈劾其極ニ達シ施政宜カラ

ス一日モ忽ニスヘカラナルヲ悟リ孟督軍ヲ交代スルニ決セ

ルモ未夕發表スルニ至ラス後任ハ孫烈臣、王懷慶（歩軍統

領）ノ中ナラン而シテ前回孟督軍交代ハ馮總統之ヲ援助シ

段總理之ヲ免職セル為反抗ノ氣勢ヲ示シタルモ今回ハ孟ノ從来ノ親分タル徐大總統ノ意ニ出テ而モ綏遠ニ転任スルニ

過キサレハ決シテ反抗ノ態度ニ出ツルカ如キコト万有ルヘカラサルモノト信スルモ若シ有リトセハ容易ニ之ヲ討伐ス

ニ対スル準備等ヲ為シタルコトナシ命令伝達セラルレハ直ルヲ得ヘシ從テ予ハ未タ何等中央ヨリノ命ニ接セサル為孟

ニ貴總領事及町野顧問ニ通知スヘシ

各地済ミ

一三九八 六月二十二日 在奉天赤塚總領事ヨリ
（電報）

孟督軍ニ対スル張作霖ノ態度ニ対シ適當ナル

措置方外務大臣ニ意見具申ノ件

第一五七号

在支公使發本官宛電報

第一〇七号

外務大臣へ転電アリタシ

第八九九号

張孟兩督軍不和ニ關シテハ六月二十日本使露國公使ト會談

省ニ対スル我政策實行上決シテ得策ナラズト思料セラルルニ付テハ此ノ際中央若ハ奉天ニ於テ何等適當ナル行動ヲ執ラレ可然ト信ズ御詮議ノ結果御回示ヲ請フ

關東厅長官、奉天、吉林、哈爾賓へ転電セリ

第一五九号

吉林省民ガ孟督軍ヲ彈劾シタルニ對シ北京政府ハ員ヲ派シテ事実ヲ調査セシメタル結果同督軍ヲ綏遠都統ニ転任セシ

メ其ノ後任者ニ孫第二十七師長並在北京王步軍統領ヲ擬シ

居ル處右転任ノ件ハ未ダ北京政府ニ於テ確定スルニ至ラザ

ル内ニ孟ノ聞込ム所トナリ孟ハ其ノ女婿タル高師團長ノ建

策ニ從ヒ中央ノ評定決定セザル以前ニ一昨年ノ例ニ倣ヒ兵

力ヲ集中シテ其ノ地位ヲ死守スルノ態度ヲ示シ中央ニ決定

ヲ躊躇セシメムトシツツアル次第ナルガ吉林軍隊中高師團

吉林省民ガ孟督軍ヲ彈劾シタルニ對シ北京政府ハ員ヲ派シテ事実ヲ調査セシメタル結果同督軍ヲ綏遠都統ニ転任セシ

メ其ノ後任者ニ孫第二十七師長並在北京王步軍統領ヲ擬シ

居ル處右転任ノ件ハ未ダ北京政府ニ於テ確定スルニ至ラザ

ル内ニ孟ノ聞込ム所トナリ孟ハ其ノ女婿タル高師團長ノ建

策ニ從ヒ中央ノ評定決定セザル以前ニ一昨年ノ例ニ倣ヒ兵

力ヲ集中シテ其ノ地位ヲ死守スルノ態度ヲ示シ中央ニ決定

ヲ躊躇セシメムトシツツアル次第ナルガ吉林軍隊中高師團

ノ際同公使ガ「ホルワット」將軍ヨリノ電報ニ接シタリト

テ語ル所ニ拠レバ両督軍側ノ關係日ニ疎隔ヲ加ヘ此ノ勢ヲ

以テセバ或ハ如何ナル事態ノ勃發ヲ見ルヤモ計リ難ク万

右ノ如キ不幸ナル状勢ヲ惹起スルニ於テハ地方在留外国人

ニ及ボス影響又甚大ニシテ頗ル憂慮ニ堪ヘザルモノアルニ

付テハ此ノ際中央政府ニ對シ友誼的勧告ヲ与フル様可然措

置ヲ講ゼラルルニ於テハ好都合ナルベシトノコトナルモ自

分目下ノ立場トシテハ何分有効ナル積極的措置ニ出デ難キ

事情アル處本件ニ關シ日本側ニ於テ何等考量中ノ次第ナカ

ルベキヤト質問シタルニ付本使ハ同様ノ報道本使ノ許ニモ

頻々トシテ達シツツアルガ実ハ右ニ就テハ林閔東厅長官最

近管内視察ノ途次奉天ニ於テ張督軍ニ會見ノ際友誼的勧告

ヲ試ミ置キタリトノ内報ニモ接セルガ両者ノ決裂ガ各方面

ニ及ボス影響ノ大ナルモノアルハ本使ニ於テモ頗ル憂慮シ

ツツアル次第ナル旨答ヘ置キタルガ右ハ固ヨリ閣下ニ於テ

モ御同感ノ義ト察セラルル處乙ヲ我方ノ立場ヨリ見ルモ之

又形勢ノ自己ニ不利ナル場合ノミ努メテ我ニ接近シ一旦得

意ノ時期ニ至レバ又我ヲ顧ミズ往々傍若無人ノ振舞ヲモ敢

テシ來タレル張作霖ヲシテ此ノ上權勢ヲ得セシムルハ吉林

一四 中国内政関係雑件（附）一四〇〇 一四〇一

一五三二

長ヲ除クノ外ニ今回ハ已ムヲ得ズ孟ニ附和シ居ルモノニシテ中央ノ命令ニ反抗シテ迄孟ト進退ヲ共ニセムトスルモノ

ナク孟自身又高齡ニシテ健康モ勝レズ数百万ノ財産ヲ貯ヘ居ルガ故ニ兵力ニ懃ヘテ迄其ノ地位ヲ固守セムトスル考ナキコト又明カナルヲ以テ此ノ際中央政府ニ於テ転任命令ヲ

発スルニ於テハ干戈ヲ用フルニ至ラズシテ事容易ニ解決スベク即奉天軍ヲ以テ孟ニ備ヘ若ハ之ヲ威嚇スル必要ナキ所

以ナリ尤モ現状ノ儘優柔不斷ニ打過グルニ於テハ徒ニ人心ニ不安危惧ノ念ヲ懷カシムルニ至ルベキヲ以テ孟ヲ転任セシムルニセヨ將又之ヲ留任セシムルニセヨ速ニ北京政府ニ於テ之ヲ決定シ以テ人心ノ安定ヲ計ルコト必要ナリト思考シ去ル十九日此ノ趣旨ニ於テ電報ヲ北京ニ発シ置キタル次

第二シテ中央政府ノ決定ニ對シテハ全然服従スル考ナリ既ニ吉林側ニ於テモ事実戰意ナク又奉天側ニ於テモ中央政府ノ命令ニ服従スル考ナル以上両者ノ間ニ兵端ヲ開クコト断ジテナシ云々

以上ノ形勢ニ鑑ミ我方ノ立場トシテハ動亂發生ノ憂ナキガ如ク自然ノ成行ニ放任シ置クコト公平ニシテ適當ナル処置ト愚考セラル在支公使發閣下宛往電第八九九号ノ次第モアト可然存セラル
北京奉天へ転電セリ

ル如キハ支那現下ノ政争ヲ一層複雜ナラシメ南方ノ極端派ニ口実ヲ与フルコトトナルヘキニ付北京政府トシテハ孟督軍転任問題ノ如キハ後廻シトスルコトヲ得策ト思考ス北京政府ニ於テ同意ナルニ於テハ其ノ旨張巡閱使ニ内訓スルコト可然存セラル

（在奉天赤塚總領事ヨリ）

張孟確執ヲ中央政府ハ解决スル能力ナキ状態

ナルニ付日本側ノ斡旋ニ倚ル外途ナキ旨施履

本内話ノ件

第一六三号
(六月二十五日接受)

在支公使發本官宛第一一〇号

外務大臣ヘ転電アリタシ

第九〇五号

往電第八九九号ニ閲シ

六月廿一日施履本本使來訪ノ際本使ハ余談トシテ本件ニ談及シ全然本使一己ノ私見ナル旨前提シタル上両督軍不和ノ報道竝張作霖力漸ク積極的行動ヲ敢テセントスルヤノ報

ルニ付当地ノ状況報告旁右申進ズ
北京吉林閏東府長官ヘ電報セリ

一四〇〇 六月二十三日

内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚總領事死（電報）

吉林問題ニ対スル張作霖ノ態度及真意等調査

方訓令ノ件

第一〇〇号

貴電第一五七号奉天、吉林衝突事件ニ關シ張作霖ノ態度及ヒ真意等詳細御確メノ上當方ヘ電報セラルト同時ニ在支公使吉林總領事及閏東府長官ヘ転電アリタシ

一四〇一 六月二十四日

林閏東府長官ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

張孟確執ニ閏シ北京政府ハ孟督軍転任ヲ延期

スルヲ得策トスペキニ付右同政府ヨリ張巡閱

使ニ内訓可然旨申進ノ件

第五一号

張巡閱使孟督軍ノ確執ニ閏シ北京並奉天ヨリノ電報ヲ綜合スルニ北京政府ノ意嚮次第ニテ如何様トモ結末ヲ着ケ得ルニ似タリ就テハ此ノ際万一二モ両者ノ間ニ事端ヲ發セシム

道ニシテ誤ラストセハ右ハ洵ニ憂慮ニ堪ヘサル次第ニシテ

特ニ我國ト緊密ナル關係ヲ有シ在留邦人ノ數亦巨万ニ上レル滿洲ニ於テ万一千由々敷事態ノ發生ヲ見ルニ至ラハ帝国臣民ノ生命財產ハ勿論其ノ商工業上ノ利益ニ及ホス影響甚大ナルモノアリ從テ本件今後ノ推移如何ハ帝国政府ノ頗ル懸念シツツアル所ト考ヘラルノミナラス一面之ヲ支那政府ノ立場ヨリ見ルモ廣東軍政府依然トシテ独立ノ態度ヲ示シ中央政府トノ融合統一尚差向キ期待シ難キ折柄中央政府調停斡旋ノ労其ノ効ナク（脱語アラン）張巡閱使ニ閏シ飽迄モ其ノ示威ノ貫徹ヲ期セントシ殆ト独立的行動ヲ敢テスル力如キコトアルニ於テハ支那ノ形勢ハ殆ト三分ノ勢ヲ為スモノト認ムルノ外ナシ觀シ来レハ兩督軍間ノ問題ハ之ヲ内政外政ノ両方面ヨリ見テ頗ル寒心ニ堪ヘサルモノアリ旁実ハ陳總長代理ニ面談ノ機会ニ於テ上記本使一己ノ所存ニ付忌憚ナク陳述セント思考シ居リタル次第ナル旨述ヘタル處施モ本使ノ説明ニ頗ル首肯シ居タルカ本件ニ閏シ其後仄聞セル所ニ依レハ大總統ハ目下奉天ヨリ上京中ナル孫烈臣ニ對シ孟督軍免黜ノ上ハ孫ヲ其ノ後任ニ擬スヘシトノ内意ヲ示シタルニ拘ラス孟力張作霖ノ行動ニ対シ対抗シテ断乎タ

ル防衛手段ニ出テントスルノ報道ニ接スルヤ内密秘書長吳
笈孫ヲ通シテ孟ノ地位保障ヲ声明セル慰撫ノ電報ヲ發シタ
ルカ右電報ハ偶張作霖ノ抑留スル所トナリ張又大總統ノ反
覆常ナキヲ詰シル等事態漸ク紛糾ニ陥ラントシツツアルヤ
ノ趣ニ之アリ斯ノ如ク局面愈險惡ニ赴キツツアルモ中央政
府ノ權力ヲ以テシテハ全ク收拾ヲ期シ難キ形勢ニシテ現ニ
最近張弧カ西田ニ對シ本件ニ付テハ當該地域ト緊密ナル関
係ヲ有スル外國殊ニ日本側ノ斡旋ニ依ル外張作霖ヲ抑制シ
テ問題ヲ円満ニ解決スルノ途ナカラント述ヘタルニ顧ミル
モ中央政府ノ威權殆ント全ク地ニ墮チ到底一督軍ヲスラ抑
圧スルノ力ナキヲ示セルモノト云フ可シ

在吉林總領事代理ヘ電報シ閔東厅長官ヘ郵報セリ

一四〇三 六月二十六日

在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

吉林督軍更迭問題ニ關スル観察並張作霖ノ談

話報告ノ件

第一六四号

（六月二十七日接受）

吉林督軍更迭問題ニ關シ熟ラ観察スルニ孟張両督軍トモ実
際戰意アルニアラス内外ノ事情ニ照シ此際戰争ノ不可能ナ

分力同人ヲ放逐スルモノナルカノ如ク邪推シテ軍隊ノ移動
其他各種ノ運動ヲ始ムルニ至レルカ自分ハ本事件ノ為ニ
兵タモ動員シ居ラサルハ内外国人ノ齊ク熟知シ居ル所ニシ
テ決シテ彼ヲ脅迫シタル事實ナキニ世間カ之ヲ誤解セルハ
自分ニ取リテハ甚シキ冤罪ナリトス尤モ今回ノ事件ハ初メ
吉林省民ノ訴ニ依リ調査ノ結果政府ハ孟ノ転任ヲ内定セル
処孟ノ反対運動ニ依リテ該内定ノ發表ヲ躊躇シタルニ基因
スルモノニシテ去ル二十四日大總統ハ薛松平ナルモノヲ使
者トシテ孟死親翰ヲ携ヘ吉林ニ赴カシメタルカ該親翰ノ内
容ハ孟カ徒ニ中央政府ノ命ニ反抗スルハ大總統ノ立場ヲシ
テ愈困難ナラシムモノナルニ付反省セラレタク孟今後ノ地
位其他ニ關シテハ東三省巡閱使ト相談ノ上必ス其ノ面目ヲ
保持セシムルニ努ムヘシト云フニアリテ該使者ト行違ヒニ
孟ヨリノ使者二十五日朝來著シ其ノ言ニ拠レハ孟ニ於テモ
奉天省カ兵ヲ動ササリシニ鑑ミテ急ニ軍隊ノ移動ヲ中止シ
誤解モ大ニ釈ケタル趣ニテ此際（孟将来ノ地位保障）（吉林
省ニ於ケル孟ノ財產保護）（師團長高士賓ノ地位保障等ヲ承
諾セラル）ニ於テハ孟自ラ進シテ吉林省ヲ去ルヘシト述ヘ
タレハ何レ數日中ニ大總統ノ使者吉林省ヨリ当地ニ帰来スル

ルコトハ共ニ熟知シ居ルモ中央政府ノ權力微弱ナルニ乘シ
之ヲ脅カシテ互ニ其ノ目的ヲ達セントスル方寸ナルカ如ク
即チ孟ハ武力ヲ以テ其ノ地位ヲ死守セントスル外觀ヲ示シ
アル状況ニシテ未タ以テ両者直接ノ睨合ヒ若クハ確執ト謂
フカ如キ程度ニ達シ居ラス從テ両者ノ間ニ武ヲ交ユルコト
ナキヤヲ懸念スルハ聊カ早計ニシテ現在ノ處張ト孟トガ各
々其ノ希望ヲ貫徹センカ為中央政府ニ對シテ驅引シツツア
ル状態ナリト云フヲ適當ト為スニ似タリ

昨二十五日張督軍ヲ訪問シ此ノ問題ノ為此際貴巡閱使等ノ
自ラ推薦シタル大總統ヲ窮地ニ陥ルルカ如キハ大局上策ノ
得タルモノニアラス宜ク自ラ進シテ孟督軍トノ間ニ意思疏
通ノ方法ヲ講シ直接円満ノ解決ヲ遂ケ得ル方法アラハ各方

面ノ為甚夕幸福ナル次第ナラスヤト前提シ本問題ハ其後如何ナル經過ヲ以テ進ミツツアルヤヲ尋ネタルニ張曰ク実ハ
今回ノ事件ニ付当初孟ヨリ自分ニ相談アリタランニハ自分
モ意見ヲ開陳シテ速ニ解決シ得タリシナランモ孟ヨリ相談
ナカリシ為自分ハ始終沈黙ノ態度ヲ持シ居リタル處孟ハ自

皆ニ付同人帰來後委細明白トナルコトト信ス目下ノ處本件
ノ紛争狀態ハ既ニ経過シ専フ善後処置ノ講究中ナリ云々ト
語レリ

右在支公使及在吉林總領事代理ニ電報シ閔東厅長官ヘ郵報セリ

（附記）孟ハ徐總統ノ東三省總督時代ニ徐ニ引立ラレ其ノ
恩顧ニ依リ現在ノ地位ニ達シタル關係アリ

右在支公使及在吉林總領事代理ニ電報シ閔東厅長官ヘ郵報セリ
（附記）孟ハ徐總統ノ東三省總督時代ニ徐ニ引立ラレ其ノ
恩顧ニ依リ現在ノ地位ニ達シタル關係アリ

一四〇四 六月二十八日 内田外務大臣ヨリ
吉林督軍更迭説ニ關シ中央政府ノ意向ヲ確メ
日本政府ノ希望ヲ篤ト申入方訓令ノ件

第八六二号

在中国小幡公使宛（電報）

一四 中国内政関係雑件(附) 一四〇五

一五三六

ルニ於テハ同地方ニ多数ノ居留民ト重要ノ利益トヲ有スル本邦ニ取リテ到底黙視スルコトヲ得サルニ至ルヘク事茲ニ至ラハ本件ハ単純ナル地方長官ノ身上問題ニ止マラズシテ大体ノ政局ニ涉リ極メテ憂慮スヘキ事態ヲ誘致スヘキカ故ニ支那政府ニ於テ此結果ヲ顧慮シ速ニ本件ノ円満ナル妥結ヲ図ラレムコトヲ切望スル旨帝国政府ノ訓令トシテ篤ト申入レラレ其ノ結果電報アリタシ

奉天及閔東厅長官ヘ転電アリタシ

一四〇五 七月四日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

吉林督軍更迭ハ内外ノ事情ニヨリ未決定ナリ
トノ徐大總統ノ意向ニ閔シ施履本西田ニ内話

ノ件

第九四九号

(七月五日接受)

貴電第八六二号ニ閔シ
七月二日ノ外交總長代理会見日ニ本使ヨリ申入レント考ヘシニ同日ハ講和条約ニ閔スル支那側會議ノ為各公使ノ會見ヲ断リ來リ翌三日ハ支那紀念日ニテ休暇ナリシニ付同日不取敢西田ヲシテ施履本ニ御電訓ノ趣旨帝国政府ノ訓令トシ

貴電第八六二号ニ閔シ

(七月五日接受)

スルノ外ナキ次第ニテ之大總統ノ苦心セル所ニシテ未タ確定ニ至ラス何レニシテモ大總統ハ満洲ニ騷擾ナキコトノ見込付カサル限り決定的措置ヲ執ラサル可シトノコトナルカ(以上ハ西田ニ対スル談話)尤最近中央政府ニ於テハ内閣ノ(脱)組織及講和条約ノ調印等ノ重要問題ニテ大總統モ施措意ノ如クナラサルニヨリ昨二日晚ノ如キ勿論実行シ得ラルル次第ニハアラサルモ大總統又辞意ヲ洩シ龔總理代理陳外交總長代理モ辞意ヲ洩セル状態ニ付本件ノ如キモ急ニ決定スヘキコトハ考ヘラレサルモ此機会ニ奉天側ノ運動モ行ハルヘキニ付何トモ確言致シ難キ旨内話セル趣ナリ

奉天閔東厅長官ニ転電シ奉天ヨリ貴電第八六二号ト共ニ吉林ニ転電セシメタリ(四日)

一四〇六 七月五日

浜面閔東軍參謀長ヨリ
福田參謀次長宛(電報)

孟督軍武力対抗ニ閔シ内話ノ件

(七月七日外務省接受)

一四〇八 七月八日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

三日夕孟督軍ハ特ニ小官ノミラ私邸ノ一室ニ招致シ愈々戰

一四 中国内政関係雑件(附) 一四〇六 一四〇七 一四〇八

争開始ニ閔スル作戦ノ大方針ヲ内示シ更ニ地形偵察中平素ノ不備ヲ修正セラレ度ト述ヘ万ノ場合ノ退路ヲモ協議シ彼ノ決意カ周囲ノ脅威ニアラサルヲ仄メカシ余命長カラサル予トシテハ最後ノ幕ナリ吉林ノ権利ハ擧テ林長官ニ委不我ハ去ラント語リ甚シク張ヲ罵倒セリ
各地済

一四〇七 七月六日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
孟恩遠ヲ惠威上軍トシ鮑貴卿ヲ吉林督軍トス
ル旨ノ大總統令公布ノ件

(七月七日接受)

第九六二号

孟恩遠ヲ惠威上軍トシ鮑貴卿ヲ吉林督軍署理ニ転任セシメ其ノ着任前郭宗熙ヲシテ暫ク兼任セシムヘク孫烈臣ヲ黒竜江督軍署理ニ任スル旨七月六日附大總統令公布セラレタリ
奉天吉林齊々哈爾ニ電報セリ

奉天吉林齊々哈爾ニ電報セリ

一四〇八 七月八日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

吉林督軍更迭問題ニ閔連シ日本政府ノ希望申

一五三七

テ篤ト申入レシタル処早速外交總長代理ニ伝ヘ回答スヘキ旨ヲ答ヘ尚施ハ本件ニ閔シテハ過日小幡公使ノ個人ノ感想(往電第九〇五号)ヲ承リタルニ付其ノ旨外交總長代理ニ伝ヘタルニ右ハ龔總理代理ニ伝フヘシトノ命アリシニ付更ニ自分ハ之ヲ伝ヘタル処總理代理ハ孟督軍更迭ノコトハ大總統ヨリ話アリタル孫烈臣ヲ其後任トスルコトニ内定セル付早速太總統ニ伝ヘ置クヘキ旨話アリ其後自分ハ叫大總統府秘書長ニ会見シ大總統ノ意向如何ヲ尋ネタル処張作霖ハ絶対ニ大總統ニ服従スヘシト称シ居リ大總統モ孫烈臣ヲ吉林督軍トシ張作霖ヲ操縦シ得ヘシト考ヘラルヨリ孟督軍更迭ニ議内定セル次第ナルカ之ニ依リ奉吉間ニ萬一騷擾ヲ惹起スルカ如キコトアリテハ日本其他外国トノ複雜ナル關係多キ地方ナルニ付充分慎重ヲ要スル次第ナリトテ目下人ヲ派シ張孟ノ調停ヲ計ラヒツツアリ実ハ今孟ヲ更迭セサルモ奉天側ハ種々ナル運動ヲナシ孟亦自己地位ノ不安ヲ感シ頻ニ軍隊ヲ集中シ場合ニ依リテハ馬賊ヲモ募集セントノ議アル由ニテ斯くて今後吉林側ニ軍隊ヲ増シ奉天側ニ对抗スルニ至ラハ激烈ナル衝突ヲ來タスノ虞アルニ付今ノ間ニ孟ヲ更迭スル方宜シカラントノ説モアリ要スルニ孟ヲ更

一四 中国内政関係雑件(附) 一四〇九

一五三八

入立鮑貴卿ヲ吉林督軍ニ任命事情ニ付施履本

西田ニ内報ノ件

第九六八号

往電第九四九号ニ閲シ

(七月九日接受)

奉天、関東長官ニ転電シ奉天ヨリ在吉林領事齊々哈爾ヘ轉電セシム

一四〇九 七月九日 在奉天赤塚總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

七月七日施履本ハ西田ニ対シ日本政府訓電ノ次第ハ直ニ外

交総長代理ニ伝ヘ尚同総長代理ノ命ニ依リ大總統ノ秘書長ヲ経テ大總統ニ伝ヘタル處大總統ハ満洲治安ニ閲シテハ充

分ニ注意シテ本件ヲ考慮セル次第ニテ目下段祺瑞ト協議中ニシテ満洲ノ秩序ヲ紊スガ如キ措置ハ執ラザル考ヘナリト

ノ答アリ追而昨六日ノ任命公布(往電第九六二号)ヲ見タル次第ナルガ孫烈臣ハ吉林側ニ於テ反対多キ為メ黒竜江督

軍トシ段祺瑞系ニシテ張作霖ト親戚ノ關係アル鮑貴卿ヲ吉

林督軍ニ任命シ多少吉林側ノ反対ヲ緩和シ張作霖ノ希望ヲ

モ満サシメタル次第ニシテ今後右更迭ニ依リ満洲ノ秩序ヲ

紊スガ如キコト多分無カル可シト考ヘラルモ吉林側ノ決

心如何ニ依リテハ断言シ難シ尚日本政府ノ電訓申入ニ閲ス

ル正式回答ハ外交総長代理(陳次長ノ辞職ハ沙汰止ミトナ

リタルモ目下請暇中ニテ本日モ外交部ニ出勤セズ)ニ確メ

タル上回答スル筈ナルモ不取敢内報スト申出タル趣ナリ

第一七三号

(七月十日接受)

ノ件

孟督軍更迭事件ニ閲シ

張作霖及ビ孫烈臣ノ本官ニ談話セル概要左ノ通り

北京政府ガ孟督軍ノ後任トシテ鮑貴卿ヲ任命シタルハ吉林

側ノ意見ヲ緩和スル意味ナルコト勿論ニシテ尚奉天ヨリハ

督軍ガ前諮詢官閻廷瑞(同人ハ孟督軍ノ親戚ナリト云フ)

ヲ吉林ニ派遣シテ孟ニ対シ穩カニ吉林引上方ヲ勧誘セシメ

ツツアレバ恐ラク吉林側ニ於テモ中央政府ノ命令ニ反抗ス

ルガ如キコトハナカルベク又奉天側トシテハ中央政府ヨリ

命令ナキ限り吉林方面ニ軍隊ヲ派遣スルノ意思ナシ云々タ

語リ張作霖等ハ此際飽迄平和ノ手段ヲ以テ吉林側ニ臨マン

トスル意思ナルガ如シ

北京閨東都督吉林ヘ電報

係円満終局ノ見込ヲ有スル次第ナリヤ確メラ

レ度旨小幡公使ニ要請ノ件

一四一〇 七月十日 立花閨東軍司令官ヨリ

田中陸軍大臣宛(電報)

張孟对立ニ中立ノ立場ヲ堅持スベキ旨独立守

備隊司令官ニ訓示ノ件

(七月十一日外務省接受)

閨参発二五三

今十日独立守備隊司令官ニ左ノ訓示ヲ与ヘタリ

奉吉時局ニ閲シ左ノ通り心得ヘシ

一、奉吉兩軍ニ対シテハ嚴正ナル中立ノ態度ヲ採リ決シテ

一方ニ偏スルカ如キ動作ナキヲ要ス

二、鉄道及附属地ノ治安維持ニ閲シ嚴格ナル態度ヲ採リ手

落ナキヲ要ス

三、鉄道及附属地ヲ妄ニ支那軍隊力利用スルコトヲ厳禁ス

ルヲ要ス

各地済

一四一一 七月十日

林閨東廳長官ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

孟督軍転任問題ニ閲シ北京政府ハ奉吉兩者間

一四一二 七月十日 在中国小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

滿洲ノ治安確保ノ為吉林督軍更迭ヲ早急実行

一四一三 七月十日 在中国小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

一五三九

シタル旨施履本來話ノ件

第九八一号

七月九日施履本本使ヲ來訪シ張作霖對孟恩遠問題ニ閔スル日本政府ノ電訓ノ次第ハ直ニ外交總長代理及大總統ニ伝達セリトテ略ホ往電第九六八号内報ノ次第ヲ述ヘ大總統ハ最初ヨリ満洲ノ治安ニ重キヲ措キ人ヲ派シテ張孟両人ノ意思疏通ヲ計ラシメタル處張作霖ヨリハ吉林側ハ已ニ馬賊土匪ヲ煽動シ各所ニ出没擾亂セシムルニ付治安維持ノ為自分ハ東三省巡閱使トシテ右討伐隊ヲ出動セシムル旨中央政府ニ電報アリ總統府ニテハ此際事態ヲ此儘ニ為シ置キ孟督軍ヲ更迭セサルニ於テハ却テ満洲ノ秩序ヲ紊スカ如キ不幸ヲ見ルニ至ルヘシト認メタルト一方吉林側ニ於テモ孫烈臣ノ來吉ニ対シテハ猛烈ナル反対ヲ表スルモ其他ノ人物ナラハ何人ニテモ督軍トシテ來任シ差支ナシトノコト判明シタルニ付旁急ニ満洲治安ノ必要上斯ク急ニ任命ヲ行ヒタル次第ナリト述ヘタルニ付本使ハ右馬賊出没云々ノ如キハ果シテ何人ガ教唆セルヤ頗ル疑問ニシテ現ニ張作霖ヨリハ林長官ノ勧告ニ閔シテモ同長官ハ張作霖ノ行動ニ賛成セラレタルカ如キ意味ノ電報ヲ政府ニ送リ又赤塚総領事ノ注意ニ閔シテ

一四一三 七月十三日

在吉林森田總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

張作霖孟恩遠両軍ノ対峙ヲ解キ和平解決ノ方

第六五号

（七月十三日接受）

孟張不和ノ件ニ閔シ両軍ノ衝突ヲ為サシメスシテ之ヲ解決スルコトハ至極望マシキ儀ナルモ両軍対峙ノ今日激昂セル吉林軍ヲ此ノ儘退却セシムルコト困難ト云フヘク和平解決ノ方法トシテハ張督軍ノ圧迫ニ依リ余儀ナクセラレタル中央ノ命令ヲ取消シ（先例モアルニ付）孟ランテ当分居坐ハラシメ（孟自身ハ何時迄モ吉林督軍ノ位置ヲ固持シタキ考ヲ有セス）相当ノ時期ニ於テ自發的ニ孟ヲ引退セシメ孟從来ノ功績ニ顧ミ斯クシテ其ノ面目ヲ保タシムルヲ要スヘク當方ニトリテモ目下未夕鞏固ナラナル我經濟上ノ根底ヲ吉林省内ニ確立スル上ヨリ見テ当分孟ノ居坐リヲ必要ト思考ス省界ニ集中シタル軍隊ハ先ニ進メタル奉天軍ヲ先ツ元ノ位置ニ退却セシメ次テ吉林軍ヲ引取ラシムルヲ順序トスノク中央ノ命令ナリトノ故ヲ以テ直ニ孟今回ノ態度ヲ中央ニ

本官發奉天宛電報第二二号

孟張不和ノ件ニ閔シ両軍ノ衝突ヲ為サシメスシテ之ヲ解決

スルコトハ至極望マシキ儀ナルモ両軍対峙ノ今日激昂セル

第一〇〇〇号

（七月十五日接受）

張作霖孟恩遠対立激化ノ情勢ニ対スル善後策

第六五号

（七月十三日接受）

二閔シ請訓ノ件

第六五号

（七月十三日接受）

反抗スルモノト断定スルハ余リニ酷ナリト思考ス何分ノ御意見御回示アリタシ

外務大臣在支公使閔東府長官へ電報セリ

一四一四 七月十四日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

張作霖孟恩遠対立激化ノ情勢ニ対スル善後策

第六五号

（七月十五日接受）

第一〇〇〇号

（七月十五日接受）

張作霖對孟恩遠ノ問題ハ中央政府筋ニ於テ今日迄表面樂觀的口吻ヲ仄カシツツアルニ拘ラズ奉天吉林方面ヨリノ電報

ハ形勢追日危急ヲ告ゲツツアルヲ伝ヘザルハナク殊ニ七月

十三日林閔東府長官ヨリ本使ヘノ來電ニ依レバ張作霖ハ同

長官ニ対シ張ニ於テ何等対抗的動作ニ出デザルニ乘ジ孟ニ

於テ益々戰備ヲ整ヘ奉天省境ヲ犯シ各地ニ於テ各種ノ画策

ヲ企テ吉林ノ民政為ニ愈紊乱シ且中国交通兩銀行ヨリ六百

万弗ヲ掠奪スル等其情勢一日モ忽ニスベカラザルニ付政府

ノ命ニ依リ討伐ノ為出兵スベキ旨ヲ電報シ來リタル趣ニテ

果シテ中央政府ヨリ右ノ如キ命令ヲ発シタリヤ否ヤハ之ヲ

当地政府当局其他有力者ノ本使並館員等ニ対スル今日迄ノ中央ノ命令ナリトノ故ヲ以テ直ニ孟今回ノ態度ヲ中央ニ

一四 中国内政関係雑件（附）一四五

一五四二

口吻ニ顧ミルモ聊カ疑ヲ挾マザルヲ得ザル所ニシテ篤ト之ガ真相ヲ突止ムル必要アルハ勿論ナルガ先ヅ以テ御考慮ヲ迎ヘ度キハ張作霖ノ態度ニシテ已ニ上述ノ如クナル以上此儘黙過スルニ於テハ今後ノ推移頗ル寒心ニ堪ヘザルモノアリ

云ハザル可カラザル様思考セラルノ点ニ之アリ從ツテ帝

国政府トシテ更ニ何等カ一步ヲ進メタル態度ニ出ヅルノ必

要ニ迫ラレ居ル様存ゼラルル處本件善後策ニ対スル本使ノ

所見ハ大体在吉林森田總領事代理發在奉天總領事宛電報第二二号ト同感ニ有之就テハ閣下ニ於テモ御同感ノ節ハ一方赤塚總領事ヲシテ調停ノ任ニ当ラシムルハ勿論他面本使ニ於テモ徐總統若クハ政府当局ニ対シ前述討伐命令ノ実否ヲ詰問スルト同時ニ主トシテ満洲ニ於ケル治安維持ノ見地ヨリ嚴重ナル警告ヲ与ヘ討伐命令ニシテ事實ナルニ於テハ其撤回ハ勿論孟恩遠ノ転任實行暫ク猶予方ヲ説得スルコトト致シタク尤モ中央政府ノ威權殆ド地ニ落チタル今日中央政府ニ対スル本使ノ警告モ其実行ヲ期シ難キ次第ナルモ昨今ノ事態ハ吾方トシテ最早ヤ其推移ニ放任シ難キニ至リタルモノト信ゼラル旁此ノ際我方ノ執ルベキ態度ニ関シ御考慮

ヲ仰ギタク至急何分ノ御電訓ヲ請フ
奉天関東厅長官ニ転電シ奉天ヨリ吉林齊々哈爾ニ転電セシメタリ

一四五 七月十六日 内田外務大臣ヨリ 在米國出圃臨時代理大使宛（電報）

張作霖孟恩遠ノ武力抗争ヲ未然ニ防止スル為

日本政府ガ努力シ居ル事情通報ノ件

第五〇二号

近頃満洲ニ於テ奉天督軍張作霖ト吉林督軍孟恩遠トノ間ニ軋轢ヲ生シ近ク両省軍隊ノ衝突ヲ見ントスルノ情況ニ在リ事ノ起リハ張作霖カ東三省巡閱使ヲ兼務シ居ル關係上常ニ吉林ノ軍務ニ干涉シ両者互ニ反目シツツアリタル矢先キ六月中旬北京ニ於テ孟督軍ハ近ク他ニ転セシメラルヘシトノ風説伝ヘラレ之ヲ聞キタル孟ハ之必ス張ノ陰謀ニ出テタルモノト推測シ仮令命令ニ接スルトモ断シテ応セストノ態度ヲ示シタル為張ハ此ヲ奇貨トシ中央ニ向ツテ孟ノ不都合ヲ申送リ同時ニ徐總統ニ孟ノ処分ヲ強要シタル結果遂ニ孟ハ吉林督軍ヲ免セラルニ至レリ然ルニ孟ハ其從来ノ行懸リト張ノ横暴ヲ惡ムノ余リ武力ヲ以テ抗争ノ態度ヲ示スニ至

リ中央政府亦事ノ成行ニ余儀ナクセラレ最近張作霖ニ向ツテ孟恩遠討伐ノ命令ヲ下スニ至リタリトノ趣ナリ
右ニ就キ帝国政府ハ万一両者ノ衝突ヲ見ルカ如キコトアルニ於テハ當ニ満洲ノ秩序ヲ紊スノミナラス支那ノ時局ニ一層好マシカラサル惡影響ヲ及ホスヘシト認メタルニヨリ屢々在支公使及在奉大在吉林ノ各領事ニ電訓シ支那政府又ハ張孟両督軍ニ対シ大局ニ顧ミ事端ヲ未然ニ防止スルノ急務ナル旨ヲ力説セシメ考課ヲ促シツツアル次第ニテ今後ノ成行ハ予測シ難キモ時節柄或ハ本件ニ關シ又々日本ノ態度ヲ猜疑誤伝セラルルノ虞ナキヲ保シ難クト認ムルニヨリ事ノ真相並ニ帝国政府ノ公正ナル如上ノ態度御参考迄ニ電報ス英仏伊ヘ転電アリタシ

一四一六 七月十八日 内田外務大臣ヨリ 在中国小幡公使宛（電報）

張作霖孟恩遠对立激化ニ関シ満洲ノ治安維持

ニ対スル日本政府ノ関心ニ付中国政府当局へ

申入方訓令ノ件

第九四七号 至急

貴電第一〇〇〇号ニ関シ御來示ノ如キ措置ニ出ヅルコトハ

一四 中国内政関係雑件（附）一四五

一五四三

何レニ在リヤヲ問ハントスルモノニ非ス唯其ノ支那中央政府タルト將夕張孟ノ何レタルトヲ問ハス苟モ満洲ノ治安ニ動搖ヲ來シ延テ日本ノ同地方ニ有スル重要ノ利害ニ影響ヲ及ホスカ如キ画策行動ヲ敢テスルニ於テハ之ニ由リテ生スル重大ノ責任ヲ負荷スルノ覺悟アルヲ要スルコトヲ予メ支那當局ニ於テ十分了解セラレムコトヲ切望スルモノナリ

閔東庁長官在奉天總領事在吉林總領事代理在哈爾賓總領事在齊々哈爾領事代理へ転電スミ尚奉天及吉林へハ別電第九四八号ノ通り電訓セリ

註 別電第九四八号ハ次掲奉天總領事宛第一一一号(吉林宛第50号ト同文)ヲ転電シタルモノニ付省略ス

一四一七 七月十八日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚總領事及
在吉林森田總領事代理各死(電報)

張作霖孟恩遠兩督軍ノ軋轢ニ對スル日本政府
方電訓ノ件

第一一一号(奉天宛)至急
第五〇号(吉林宛)至急

賓及齊々哈爾ヘハ転電済

註 别電ハ前掲小幡公使宛第九四七号全文

一四一八 七月十九日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張作霖孟恩遠対立激化ニ關シ平和解決ノ為張
勲ノ使者及北京政府ノ使者並黒竜江省財政厅
長來奉シ張作霖ト打合ノ件

第一一八九号

七月十九日張勲ノ使者孟某及北京政府ノ内命ヲ帶ヘル(公然ノ使者ニ非ス)舒某昨夜來奉セル處統イテ黒竜江省董財

政厅長吉林ヲ經テ今朝來奉シタリ共ニ平和解決ノ弁法ニ付
張作霖ト打合ノ為ナルコト明カナルガ打合ノ内容ハ後刻確
メ電報スベシ

在支公使在吉林領事閔東都督ヘ転電セリ
メ電報スベシ

一四一九 七月二十日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張孟關係平和解決策ニ付黒竜江省財政厅長張
作霖ト打合ノ結果ニ關スル情報報告ノ件

第一一九一号

一四一九 中国内政関係雑件(附) 一四一八 一四一九 一四二〇

張孟兩督軍ノ軋轢ニ關シ北京政府ヨリハ張作霖ニ對シ孟督軍討伐ノ命令ヲ發シタリトノ趣ニテ事態切迫セルヤニ認メタルニヨリ別電ノ通り在支公使ヘ電訓セルニ付貴官ハ右支那政府ヘ申入ノ次第ヲ至急督軍ヘ面陳セラレ同時ニ兩督軍相互ノ關係ハ帝國政府ニ於テ何等閑知スル所ニアラスト雖満洲ノ秩序ヲ紊シ延テ帝國臣民ノ利害ニ影響ヲ及ホスカ如キコトアルニ於テハ之ヨリ生スル重大ノ責任ハ全然支那當局ニ於テ負担スヘキモノト覺悟セラルヘク之ト同時ニ帝國政府ニ於テハ兩督軍ノ孰レニ對シテモ断シテ援助若クハ同情ノ態度ニ出ツヘキモノニアラサルコトヲ篤ト了解シ置カレ度旨明白ニ説明シ置カレタン

尚右ノ次第八誤解ヲ防ク為在支公使ヨリ支那政府ヘ申入レノ要旨ト共ニ口上書ニ認メ交附シ置カルル様致シタシ本件ハ奉天吉林兩督軍ニ對シ同様ノ申入ヲ為スモノト御承知アレ
(奉天ヘハ)本電別電ト共ニ参考トシテ哈爾賓及齊々哈爾ニ転電アリタシ尚吉林ヘハ直接電訓シ在支公使閔東庁長官ヘハ直接電報済
(吉林ヘハ)奉天ヘハ直接電訓シ在支公使閔東庁長官哈爾

往電第一一八九号ニ閱シ
七月十九日薰黒竜江省財政厅長ハ孟恩遠ノ意ヲ承ケ孟ヲシテ高士儕ノ一箇師団及外一箇旅團ヲ率イテ直隸ニ赴カシムルコトシテ平和ニ時局ヲ解決シタキ希望ヲ申出デタルニ付凝議ノ結果張作霖ハ之ニ同意シ直ニ中央政府ニ向ツテ右条件ヲ許可スル様言葉ヲ尽シテ電請シタリト言フ尚張勲ノ使者モ之ニ同意シタル趣ナリ
右ハ于冲漢カ今朝態々本官ヲ訪問シテノ直話ナリ
在支公使長春齊々哈爾吉林閔東庁長官ヘ電報セリ

一四二〇 七月二十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
張作霖孟恩遠ノ軋轢ニ關シ外交總長代理ニ訓
令ノ趣旨ヲ面陳シタルニ同代理ハ満洲ノ動乱
・ 防止ノ為弁法ヲ講ジ居ル旨聲明ノ件
(七月二十二日接受)

貴電第九四七号ニ閱シ
七月廿一日本使外交總長代理ニ會見シ帝國政府ノ訓令トシテ御電訓ノ趣旨ヲ面陳シタル上尚参考トシテ右ヲ口上書トシタルモノヲ手交シタル處同官ハ奉吉問題ニ關シテハ曩ニシテ御電訓ノ趣旨ヲ面陳シタル上尚参考トシテ右ヲ口上書トシタルモノヲ手交シタル處同官ハ奉吉問題ニ關シテハ曩ニ

一四二 中国内政関係雑件（附）一四二一

一五四六

貴公使竝ニ貴国政府ヨリ已ニ御注意ノ次第アリ又中央政府ニ於テモ満洲ノ治安ニ付テハ疾ク充分ノ考慮ヲ加ヘ措置シ居ル次第ニシテ自國ノ領土内タル満洲ニ動乱ヲ來タシ秩序ヲ素スガ如キコトアルハ本国政府ノ憂慮実ニ貴国政府ニ數十倍セル次第ニテ中央政府ニ於テハ斯カル事態ノ發生セザル様目下種々苦心シ殊ニ高師長孟旅長等ノ憤慨甚ダシキ実情ナルニ顧ミ現ニ政府ニ於テハ主トシテ之等ニ対スル適當ナル弁法ヲ講シツツアリ尤モ右弁法ノ如何ニ付テハ事機密ニ属スル為只今言明シ難キ次第ナリ尤モ七月十八日ニ奉吉軍隊ノ衝突説アリタルモ右ハ取調ノ結果奉天省境内ニアル奉天軍隊ニ於テ吉林側ノ密偵ヲ逮捕セン小事件ガ斯ク誤伝セルコト判明シ幸今日迄ハ奉吉両軍ノ衝突之ナク目下措置中ノ弁法ヲ以テセバ満洲ニ動乱發生スルガ如キコトナカル可シト信ズルモ今貴国政府ノ申入ニ接スルハ本国政府ノ深ク感動スル所ナリト述べタルニ付本使ハ貴國政府ノ苦衷ハ從来直接間接了知シ又現ニ貴国政府ニ於テ満洲ノ動乱發生セザル様適當ナル弁法ヲ措置セラレツツアリトノ言明アリタルハ本使ノ欣幸トスル所ニシテ早速其要旨帝国政府ヘ報告スベシト答へ置ケリ尚貴電第九四七号御來訓ノ趣ハ今甘

一日午後龔總理代理ヘモ申入ル考ナリ
奉天、関東厅長官ニ転電シ奉天ヨリ吉林、哈爾賓、齊々哈爾ヘ転電セシメタリ

一四二一 七月二十二日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

張作霖孟恩遠確執ニ閔シ訓令ノ趣旨ヲ張作霖

ニ申入レ之ニ対スル張ノ回答報告ノ件

第一九二号 （七月二十三日接受）

貴電第一一號訓令ノ趣旨七月二十日張作霖ニ伝フルト共ニ口上書ヲ渡シタルニ張ハ能ク我方希望ノアルトコロヲ了解スルト共ニ日本政府カ支那及満洲ノ治安維持ヲ切望セラルルノ好意ニ対シテハ衷心感謝スルトコロアル旨ヲ述ヘ更ニ幸ニモ本件ハ既ニ吉林側ヨリ申出条件（拙電第一九一号参照）アリタルヲ以テ同意ノ上直ニ中央政府ニ向シテ右条件ニテ解決許可方電請シ置キタレハ多分許可ノ運トナルヘク戦争ヲ開始スルカ如キコトハナカルヘキ見込ニシテ北京政府ヨリ返電アリ次第通知スヘシト附言セリ

在支公使長春齊々哈爾吉林各領事及閔東厅長官ヘ電報セリ

一四二二 七月二十二日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

張作霖ガ中央政府ヨリ吉林討伐ノ命令ヲ受ケ

タルヤ否ヤニ閔スル件

第二〇一号

（七月二十三日接受）

本官發林長官宛電報左ノ通リ

張作霖カ北京政府ヨリ吉林討伐ノ命令ヲ受ケタルヤ否ヤニ付在支公使竝吉林領事ヨリ電報ノ次第モアリタルニ付張作霖ニ面会ノ上右命令ナリト称スル暗号儘ノ原電ヲ示サンコトヲ求メタルニ張ハ國務院陸軍總長及段祺瑞等ノ來電ヲ示シタリ右ニ依ルニ北京ヨリハ吉林ヲ討伐スヘシトノ明ナル命令ナキモ張ニ於テ討伐命令ト解釈シテ之ヲ本官ニ通告シタルハ必ズシモ捏造並虚構ト為シ難キ節アリ右原電報写ハ本日郵送シタリ
外務大臣在支公使吉林長春ニ電報セリ

一四二三 七月二十三日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

張孟確執ニ閔シ小幡公使外務大臣訓令ノ趣旨

ヲ龔總理代理ニ申入ノ件

一四二四 中国内政関係雑件（附）一四二二 一四二三

一五四七

一四 中国内政関係雑件（附）一四二四

一五四八

可キ旨ヲ命シ吉林軍隊ノ不穩ニ対シ相当準備セシメタルニ
過ギズ從テ貴国政府ノ懸念セラル満洲ノ秩序ヲ乱スガ如

キ行動ハ之ナシト信ズルモ万一満洲ニ動乱発生ノ場合ハ自

國領土内ノコトニ付其責任ハ本国政府ニ於テ負フベキコト

ハ当然ナル旨答ヘタリ依テ本使ハ貴総理代理ノ御話ニ依リ

満洲ニ動乱発生ノ懸念ナキヲ知ルハ本使ノ満足スル所竝貴

総理代理御申述ノ次第ハ本国政府ニ報告スベキ旨答ヘ置ケ

リ尚襲総理代理ヨリ情報ニ依レバ吉林軍隊中ニハ日本浪人

混入シ居レリトノ説アルガ右ハ勿論事実ニ非ズト信ズルモ

万一眼ノ如キ事情アルニ於テハ充分取締アリ度キ旨申出タ

ルニ付本使ハ右ニ付何等聞知スル所ナク勿論事実ニ非ザル

可シト信ズルモ若シ万一右様ノ事実ノ証拠アルニ於テハ腹

藏ナク申出アリ度ク然スレバ日本側ニ於テモ嚴重取締ノ措

置ヲ執ルハ勿論ナリ現ニ斯カル誤解ノ有ルヲ慮リ帝国政府

今回ノ申入ノ次第ハ同時ニ奉天吉林帝國總領事ヨリ政府ノ

訓令トシテ夫々張巡閱使孟督軍ニ対シ通告方取計ハシメタ

ル次第ナリト答ヘタルニ襲総理代理ハ貴国政府ノ公正ナル

措置ニ対シ謝意ヲ表スト述べタリ

奉天閨東厅長官吉林齊々哈爾哈爾賓濟

在支公使吉林へ転電セリ

一四二五 七月二十四日

在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

徐樹錚來奉目的ニ關シ張作霖説明ノ件

第二一〇号

（七月二十五日接受）

貴電第一三〇号ニ關シ

本日張作霖ノ前田官補ニ語リタル要領左ノ通り

今回徐樹錚ノ來奉シタルハ自分が西北籌邊使ノ開設不贊成

ノ意見ヲ有スルヲ以テ特ニ其ノ説明ヲ求ムル為招致シタル

ニ非ズスクノ如キハ全ク無根ノ風説ナリ徐ノ來奉ハ勿論自

分ヨリノ依頼ニ依レルモコハ西北籌邊使ノ當然ノ職務トシ

テ吉林督軍更迭問題並ニ長春ニ於ケル日支兵衝突事件調査

ノ為ニ過ギズ云々

外務大臣在吉林領事閨東厅長官へ電報セリ

註 小幡公使發赤塚總領事宛第一三〇号（赤塚總領事七月二十
二日發内外務大臣宛第一九九号）ハ徐樹錚が張作霖ノ招
電ニ応シ奉天ニ赴クハ西北籌邊使設置問題ニ關スル打合セ
ノ為ト確聞セル旨赤塚總領事ニ電報セルモノナリ

一四二四 七月二十三日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

孟恩遠討伐命令ニ關シ張作霖使者ヲ閨東厅長

官ノ許ニ派シ弁明ノ件

第八〇号

（七月二十五日接受）

閨東厅長官ヨリ電報左ノ通り

第八〇七号

（七月二十二日接受）

七月二十二日張作霖ハ于沖漢ヲ呼寄セ町野中佐ヲ本官竝立
花司令官ニ派遣シ張作霖力國務院段祺瑞及斬雲鵬ヨリ受ケ
タル孟督軍カ政府ノ命令違反ノ場合ニ之ヲ討伐スベキ中央
政府ノ決議ノ三四通ノ電報写ヲ持參シ其ノ立場ヲ弁明セリ
蓋シ本官ニ於チ曩ニ張作霖カ本官ニ電報セル討伐命令ノ真
偽ヲ中央政府ニ確メタルヲ承知シ張ニ於テ虚報ノ電報ヲ本
官ニ致シタル芝居ニアラサルコトヲ弁護センカ為ナルヘシ
前陳張作霖カ中央政府ヨリ受ケタル電報写ヲ閱スルニ孟督
軍力中央ノ命令ニ服セサルニ於テハ中央政府ニ於テ討伐ヲ
決定セルコトタケハ事実ト認ムルノ外ナシ本官竝立花司令
官ハ張作霖ニ対シ出来得ル（脱）力ヲ交ヘスシテ孟督軍ノ
離任ヲ計ルコト必要ナリト忠告スヘキ旨于沖漢ニ伝言セリ

一四 中国内政関係雑件（附）一四二七

一五五〇

ハ已ムヲ得ズ適當ノ措置ヲ採ルコトトナルベク又引率兵ハ護衛者一個旅ノ内一聯隊（實際目下吉林境ニアル当省兵ハ歩騎各一旅余）ニ過ギザレバ鉄道沿線ハ依然旧ノ如ク其ノ間日本人ニ対シ責（脱）人同様保護スベケレバ右ノ次第貴国政府へ回電アリタシト述べタリ參謀長ハ二十四日夜（不明）ト同行先發トシテ哈爾賓へ向ケ出発シ張ヨリ安全ナル報告ヲ待チテ鮑ハ二十五日（不明）ヲ伴ヒ出発スル予定ニシテ鮑等今回ノ行動ハ特ニ日支兵ノ衝突セザルコトヲ考慮シ居ルモノノ如シ尚孫督軍ハ高ノ事件一段落ヲ告グル迄来任セズ王道尹一時督軍省長代理タル筈本電公使奉天吉林及哈爾賓へ転電セリ

一四二七 七月二十五日

在ハルビン佐藤総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

鮑黒竜江督軍ノ軍隊吉林軍ト衝突ノ虞アルニ
付措置振ニ閑シ請訓ノ件

第六七三号

至急

（七月二十七日接受）

黒竜江鮑督軍ハ十九旅ノ兵ヲ率キ愈吉林ニ向フコトニ決定セル由ニテ一部ノ騎兵既ニ松花江上流ヲ渡リ二十四日ヨリ当市内ニ潜入シツツアリト云フ右ニ付廿五日東支鐵路一帯

領事代理及本官宛御電訓ヲ請フ鮑督軍ハ廿六日当地着ノ希
望ナリト云フ

公使奉天吉林齊々哈爾ヘ転電済ナリ

一四二八 七月二十六日

在ハルビン佐藤総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

吉林軍側ニ於テ鮑新督軍ヲ平和裡ニ迎フルコ

トニ決定ノ件

第六七四号

（七月二十七日接受）

往電第六七三号ニ關シ黒竜江督軍公署參謀長張煥相七月二十六日哈爾賓着後盧軍司令官高旅長ト談合ノ結果平和裡ニ新任鮑督軍ヲ迎フル事ニ決定シ支那商民ハ旗ヲ立テ歓迎ノ意ヲ表セリ同參謀長ノ率キル第一梯隊ハ同日中ニ着哈ノ予定又鮑督軍モ同日到着ノ旨道尹ヨリ公文ニテ通報シ來レリ市内静穩

公使吉林齊々哈爾ヘ転電スミ

一四二九 七月二十七日

在長春森田領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

吉林事件ニ依ル動乱ノ場合ノ居留民保護ノ件

農安ヘ警察官派遣方農安分館ヨリ稟請ノ件

一四二八 一四二九 一四三〇

司令官代理（吉林側）高鳳城少将ノ使者特務機関石坂少将北滿派遣隊司令官福原少将及本官ヲ來訪黒竜江督軍副官「チュウウリボウ」ヨリ在傳家甸吉林軍司令部明渡シノ嚴談ヲ受ケタルモ高司令官ハ斷然之ヲ拒絶シタルヲ以テ黒竜側ノ態度如何ニ依テハ何時兵火ヲ見ルニ至ルヤモ計リ難ク此ノ場合附屬地ノ安全ヲ期シ難キ處日本側ハ其ノ際如何ナル態度ヲ

トラルベキヤトテ暗ニ日本側ノ干渉ヲ希望スル如キ口吻ヲ洩ラシタルニ付本官ハ両督軍ノ繫争ニ対シテ銃火ヲ交ユル力尽力セザルヲ得ズ從ツテ附屬地ニ接近シテ銃火ヲ交ユル如キハ日本領事トシテ最モ好マザル所ナリ但シ戰闘ヲ事前ニ防ガシガ為何等カノ手段ヲ講ズベキヤ否ヤハ本国政府ノ指令ヲ仰ギタル上ナラデハ本官限リニテハ断定シ難シト答へ置キタリ要スルニ黒竜側ニテハ傳家甸ノ警備手薄ヲ見越シ無理ニ侵入セント試ムベク其ノ結果多少ノ衝突免レ難キヤニ思考セラル其ノ場合ニ處スル居留民保護ニ閑シテハ福原司令官ニ於テ適宜手段ヲ講ゼラレ居ルモ此際黒竜督軍ニ対シテモ在支公使宛貴電第九四七号ト同一主旨ノ勧告ヲナシ置ク必要アルベシト思考スルニ付テハ至急何分ノ儀山崎

第一〇〇号

農安發本官宛電報左通り

第一四四号

吉林事件ノ前途稍不穏ノ形勢アルニ鑑ミ居留民保護方ニ閑シ支那側當局ト申合ヲ為シ十分手配シテ遺漏ナカラシコトヲ期シ居レトモ万一人の場合アルニ於テハ居留民全部ヲ領事館内ニ收容シ一時ノ急ヲ救フコトトセリ尤モ今後事情ノ如何ニ拘ラス當地駐在^{チャウ}騎兵團長及王步兵團長ハ當地ニ駐マリテ治安維持ニ任スルコトナレリサレト節制ナキ支那軍隊ノコトナレハ万一人の場合ニハ到底十分ノ信賴ヲ期シ難キモノアルニ依リ出来得ルナラハ不取敢警察官ノ派遣方然ルヘク御取計相成タシ尚万一人の場合ニ自衛策トシテ日本軍隊ヲ招来スルノ必要アルヤモ計リ難キニ付予メ其筋ヘ然ルヘク御交渉方御取計相成タシ

右大臣ヘ十六トシテ公使ヘ九トシテ転電アリタシ

一四三〇 七月二十八日

内田外務大臣ヨリ
在ハルビン佐藤総領事宛（電報）

張孟对立ニ閑スル日本政府ノ態度方針ヲ鮑督

軍ヘ至急申入方訓令ノ件

一四二九 一四三〇

一四五五

一四 中国内政関係雑件（附）一四三一 一四三二 一四三三

一五五二

第四五三号 至急

貴電第六七三号末段ニ関シ本大臣發在支公使宛往電第九四

七号及在吉林總領事代理宛往電第五〇号各電訓ノ趣旨本大

臣ノ訓令トシテ至急貴官又ハ山崎領事代理ヨリ鮑督軍若ク

ハ其代理者へ申入レラル様致シタシ

右本大臣ノ訓令トシテ齊々哈爾ヘ転電シ参考ノ為長春吉林奉天北京閔東厅へ転電アリタシ

一四三一 七月二十九日

在旅順林閔東厅長官ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

吉林ノ秩序不安ニ付北京政府方紛乱防止ノ措

畫ヲ執ル様希望スル旨林長官ヨリ小幡公使ヘ

電報ノ件

秘第一一三号

本官發公使宛電報左ノ通

（第一一二号）

孟督軍吉林ヲ去リ同地ノ秩序一時頗ル不安ニ感セラル支那政府ハ至急相当ノ訓令ヲ發シ鮑督軍著任迄ノ間秩序ノ紛乱ヲ防ガルコト希望ノ至リニ堪ヘズ

大臣吉林へ転電セリ

第一〇〇一号 至急

吉林方面ノ情況切迫ノ次第ハ隨時當該領事ノ電報ニヨリ御承知ノ通りニテ或ハ同地ニ我軍隊ノ派遣ヲ余儀ナクセラルニ至ルヤモ難計ニ付貴官ハ至急林閔東厅長官發貴官宛往電第一一二号ノ次第ヲ支那政府へ申入レラルト同時ニ更ニ帝国政府ノ訓令トシテ吉奉兩督軍ノ確執ニ就テハ屢次警告ノ次第アルニ拘ラス遂ニ同方面ノ秩序ヲ紊乱セシムルニ至リ在留邦人ノ現状ハ刻々危殆ニ瀕シツツアルコトヲ指摘シ支那政府ニ於テ此ノ事態ニ適応セムカ為如何ナル措置ヲ執リツツアリヤヲ確メ結果折返シ電報アリタシ尚右申入ノ要旨ハ後日ノ為書面ヲ以テ申入レ置カルヘシ但シ前段軍隊派遣云々ノ件ハ追テ何分ノ儀申進スル迄絶対秘密ニ附シ置カレタシ

奉天吉林哈爾賓長春齊々哈爾閔東厅へ転電セリ

一四三四 七月三十日

在吉林森田總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

吉林城内目下平穏ニ付軍隊派遣ノ必要ナキ件

（七月三十一日接受）

吉林城内目下平穏ニ付軍隊派遣ノ必要ナキ件

第七七号

一四三四 七月三十日

在吉林森田總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

吉林省城内ハ戒厳状態ニアリ午後十時以後ノ警戒物々シク

第三〇号 至急

一四三二 七月三十日 在旅順林閔東厅長官宛（電報）

吉林及農安へ警察官臨時派遣手配方ニ關スル件

吉林ノ情況不穩ノ為森田總領事代理ヨリ軍隊ノ派遣方當方へ電稟アリタル次第ハ御承知ノ通ナル處他ノ一方ニ於テ内外諸般ノ情勢ニ顧ミ及フ限り軍隊出動ヲ避ケ他ノ手段ヲ尽クシテ居留民保護ノ目的ヲ達スルヲ得策トスルハ勿論ナルニ付差当リノ措置トシテ貴管下ヨリ能フ限り多数ノ警察官同地ヘ臨時派遣方急速御手配煩ハシ度尚又農安ヨリモ同様ノ儀申出アル次第ニ付此亦貴官ノ御裁量ニヨリ適宜御取計置相成様致シタシ

北京、奉天、長春、吉林、農安へ転電アリタシ

一四三三 七月三十日 在中國小幡公使宛（電報）

吉林方面ノ秩序紊亂シ在留邦人危殆ニ瀕シ居

ルコトヲ中国政府ニ指摘シ同政府ノ執リツツ

アル措置確メ方訓令ノ件

在留邦人中多少危惧ノ念ニ駆ラレ居ルモノアルモ大体ニ於テ平静ナリ新募兵モ今日迄ノ処動搖ノ模様見エズ省城内外ニ集合セル馬賊モ未夕活動スルニ至ラズ本官ノ觀察スル所ニテハ現下ノ状態ニテハ我軍隊ノ出動ヲ稟請スル程ノ必要ヲ認メズ在留民ノ重ナルモノハ充分事情ヲ承知シ居リ警察官數十名ノ應援ニテ満足シ居ルモノノ如シ従ツテ吉林軍ガ敗戦セザル以上省城内ハ目下ノ平穏状態ヲ継続シ得ルモノト思考セラル

本官三十日長春ニ向フ

右在支公使林長官ニ電報セリ

一四三五 七月三十日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

張孟对立ニ關シ鮑督軍及高級參謀談話ノ件

第六九一号

（八月一日接受）

來哈中ノ鮑督軍七月二十九日本官ヲ來訪セルニ付三十日答訪セリ貴電第四五三号御訓令ノ次第ハ既ニ山崎副領事ヨリ

督軍齊々哈爾出發前申入レタル趣（山崎發大臣宛電報第一一〇号）ナルノミナラズ當地吉林軍トハ円満解決ヲ告ゲタル今日更メテ本官ヨリ注意ヲ促ス必要ナカリシモ答訪ノ機

一四三四 一四五五

一四五三

一四三五

一四五六

一四五七

一四 次内政関係事件（附）一四三六

一五五四

会ヲ利用シ為念本官ヨリモ帝国政府ノ訓令トシテ申入レタ
リ之ニ対シ督軍ハ一意平和ヲ念トスルヲ以テ吉林軍トノ衝

突ヲ惹起シ外国人ヲ危殆ニ瀕セシムルコト断ジテナカルベ

シト答ヘタリ又往電第六八四号双城堡ノ暴行事件ニ關シテ

ハ早速該地司令官ニ嚴命ヲ（脱）ノ家宅ニ接近セシメザルコ

トトセリト述ベタリ同地居留民総代ノ來報ニ依ルモ本邦人

ニ対シ已ニ必要ノ保護加ヘラレ居ルモノノ如シ何分暴行ヲ

受ケタル日本人ガ料理店業者ニ付当方ニモ相当ノ弱味アリ

追テ同地料理店業者ハ全部閉鎖スルヲ可トスベシト思考ス

尚督軍側ノ情報ニ依レバ高級參謀黃鸞鳴三十日長春ヨリ帰

哈孟督軍トモ篤ト打合セタル處可成寛大ナル条件ニテ妥協

ヲ欲スルモ如何セン張作霖側ノ要求過酷ニ付鮑督軍ニ調停

ヲ依頼スル旨申出アリタル由高士儕モ亦長春ニ家族ヲ同伴

帰着シ從前ト異リ温順ノ態度ヲ持シ居ルニ付最早衝突丈ハ

十分免レ得ル見込立チタルモ尚一応奉天ヘ鮑督軍ヨリ特使

ヲ差立テ妥協条件ニ付作霖ノ意嚮ヲ確メタル上調停ニ取掛

ルベシトノコトナリ

北京、奉天、長春、齊々哈爾へ転電セリ

第一一三号

往電第一一一号ニ關シ

一四三六 七月三十一日 在長春森田領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

鮑孟間及孟張間各話合ノ模様報告ノ件

内田外務大臣（電報）

更ニ道尹側ヨリ聞知シタル所ニヨレハ鮑督軍ヨリ孟督軍ニ

対シ奉吉問題切迫シ更ニ寛城子事件ノ發生ヲ見タル今日直

ニ長春ニ赴キ難キ事情アレバ參謀黃鸞鳴ヲ長春ニ派遣スル

ニ付孟ニシテ和平解決ノ誠意アルニ於テハ自ラ長春ニ至リ

黄ト共ニ折衝アリタシトノ電報ニ接シ斯ク急遽來長シタル

次第ニシテ高士儕ハ孟ノ招致ニ依リ廿八日夜二時頃農安ヨ

リ帰来スルヤ孟恩遠ハ黃參謀ト同席ニテ自己ノ意図ヲ語リ

涙ヲ流シ説得ノ結果高ヲシテ孟ノ名目サヘ立ツニ於テ何等

異存ナキコトヲ言明セシメ又鮑督軍ニ対シテハ吉黒兩省兵

ノ万ノ誤解ヲ避ケンガ為メ成ルベク軍隊ヲ引率セズ自身

來長セシコトヲ要望シ場合ニ依リテハ双方共軍隊ヲ附セズ

附屬地内ニ於テ協議スルモ可ナリトノ意見ヲ申送リ一方孟

ハ右ノ次第ヲ本日午後二時張作霖ニ電話シテ自己ノ眞意ヲ

説明シ尚張ニシテ自己ヲ信用セザルニ於テハ孟自ラ奉天ニ

赴キ張ト直接協議スルモ差支ナキ旨ヲ告ゲ張作霖ハ孟ノ此

態度ヲ諒トシ孟及ビ高士儕ノ面目ヲ維持スル点ニ付テハ充

分尽力ス可ク且ツ張作霖ハ高士儕ヲ自己ノ部下トシテ優遇

セントノ意向ヲ洩ランタル趣ナルガ高ハ之ヲ肯ズルヤ疑ハ

シ吉長沿線ノ土匪ニ備フル為吉林ヨリ同鐵道二百二十名ノ

巡警ヲ派シ又長春ニハ保衛團ノ團丁ヲ以テ警察力ノ不足ヲ

補フコトトナレリ

右公使、奉天、閔東府長官、吉林、哈爾賓、齊々哈爾ニ電

報セリ

一四三七 七月三十一日 在奉天赤塚總領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

張孟間電話ノ内容ニ付張作霖談話ノ件

（八月二日接受）

七月三十日張作霖ノ談ニ依レバ孟恩遠長春到着後高士儕ヲ

説諭シタル結果高ノ意見モ漸次緩和シ来リタル趣ニテ孟ヨ

リ電話ヲ以テ其ノ旨直接自分ニ通話シ来リ尚同人ハ（脱）

ムベキ筈ナルガ只今回時局ノ發展ニ伴フ吉林側軍費ノ支出

尠カラザルヲ以テ右軍費立替方ノ承諾ヲ求メ来リタルニ付

自分ハ之ヲ承諾シ置キタル次第ナレバ奉吉兩省間軍隊ノ衝

一四三九 八月七日 在吉林森田領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

孟恩遠督軍免職後ノ行動予定ニ關シ談話ノ件

（八月七日接受）

一四 次内政関係事件（附）一四三七 一四三八 一四三九

一五五五

一四 中国内政關係雜件（附）一四四〇 一四四一

一五五六

六日往訪ノ本官ニ対シ孟恩遠ハ大要左ノ通り談話セリ

六日前督軍ノ印綬ヲ鮑督軍ニ引キ渡シ自分ノ事務ハ既ニ

引キ（脱）何時ニテモ出發シ得ルモ今回ノ時局ニ費サレタル軍事費ノ支弁方及高士儕ノ離吉ニ関シテ未ダ確定セザル所アリ之等ノ決定ヲ俟テ出發シ天津ニ数日滯在ノ上上京ス

ル筈ナルモ鮑督軍ハ總ベチノ事項ヲ自己一存ニテ決定セズ

一々張巡閱使ト打合セ居ル模様ニ付自分ノ吉林出發日取モ

未定ナリ元来自分ハ早クヨリ辞意アリシニ徐縦統ヨリ書面ニテ（不明）ヲ以テ一切辭職スペカラザル事ヲ申越シタル

為我慢シ居リ遂ニ斯ル結果ヲ見ルニ至リンモノニテ要スル

ニ徐總統ニ騙サレタルノ感アリ然ルニ高士儕及王瑞林モ辞職シタルガ何レモ自分ト前後シテ天津ニ赴ク筈ナリ尚将来

ニ於ケル自分ノ関係シ居ル森林鉱山電灯等ノ諸工業ニ就テハ出發前ニ充分御相談シ何分ノ援助ヲ願ヒ度シ云々又王交渉員ハ前記軍事費ハ結局省ノ財政ヨリ支弁スルコトトナルベント語レリ

公使奉天哈爾賓閣東厅長官ヘ電報セリ

一四四〇 八月十四日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

（別紙）

孟督軍更迭問題解決後ノ長春支那街一般市況

外務大臣子爵 内田康哉殿
孟督軍更迭問題解決後ノ長春市況ニ關シ報告ノ件
本件ニ關シ別紙ノ通及報告候間御查閱相成度此段申進候

敬具 在長春

敬具

一四四一 九月九日 在長春村上領事ヨリ
内田外務大臣宛
孟恩遠退任後ノ長春ノ模様ニ關シ報告ノ件
（九月十七日接受）
大正八年九月九日

孟恩遠天津到着ノ件

第一四五号

元吉林督軍孟恩遠ハ護衛兵七拾名ト共ニ八月十三日午前四時当地着直ニ旧独逸租界ノ自邸ニ入レリ

在支公使ヘ電報セリ

ヘテ吉林ニ向ヒシヨリ時局ノ和平解決ハ確実ナルモノト一般ニ認メラレ、一時附属地内ニ避難セシ支那人モ支那街ニ帰宅スル者多ク次第ニ城内外共ニ原状ヲ恢復スルニ至リンカ先之時局ニ關聯シテ各地ニ移動セン吉林軍ノ全部未ダ元駐屯地ニ復帰スルニ至ラサリシヲ以テ彼等ハ引揚ニ際シ強奪暴行ヲ為スニアラスヤト懸念セラルアリ又時局中吉林軍ニ加担スル為長春方面ニ招募集中セラレタル馬賊團ノ一行ハ解散後尚当地ヲ退去セサル者多カリン為猶引続キ市中一般ニ不安ニ駆ラレツツアリタリ茲ヲ以テ同月下旬、支那官憲ハ強制的ニ取引所ニ向ツテ取引ヲ開始セシメ、劇場及妓樓ニ向ツテ開業命令ヲ發シタルヨリ人心初メテ平穏ニ向ヘリ

（四目下高梁繁茂期ノコトトテ内地トノ交通少ナキ為商品ノ売行僅少ナルコト等ナルヘクカカル状態ヲ以テ推移セハ旧暦八月ノ決算期ニハ破産ノ運命ニ陥ル者無キヲ保セナルヘシト懸念セラル

尚鮑新任督軍ハ銳意省財政ヲ整理センコトニ努メツツアルモノノ如ク其ノ一策トシテ郭省長ト協議ヲ遂ケ定期有利國庫券ヲ發行スルコトニ決シ過般來中央政府ニ稟請申ノ處今般認可セラレタル趣ナリ又當地ニ於ケル東三省官銀行分号ハ客月二十五日愈々開業セリ

一四四二 九月二十七日 在吉林森田總領事ヨリ
内田外務大臣宛

吉林省文官更迭及其影響ニ關スル件

然レトモ最近ノ一般市況ヲ調査スルニ未タ不振不景氣ノ状

態ヲ免レス其原因ハ吉林官帖ノ下落等ノ外（約壹ヶ月半ニ亘ル時局中休業ヨリ生シタル損害ノ大ナリシコト）吉林軍

憲力中国銀行ヨリ大洋五十万元交通銀行ヨリ大洋八十万元ヲ押収シタルコト及正金銀行ニ於テ中国交通兩銀行ニ貸付

アリシ銀票八十万元ヲ取付ケタルコト等ニ依リ金融杜絶ノ状態ヲ惹起シタルコト（時局ニ引続キ虎疫發生シタルコト）

一四 中国内政関係雑件（附）一四四三 一四四四

一五五八

ニハ多少ノ更迭アリタルモ文官ニハ目立ツ程ノ異動無之僅
カニ一二ノ更迭アリタルニ止マリ候然ルニ右ノ予想ハ最近
漸ク事実トナラントスル模様ニ有之交渉員ノ内話スル所ニ
依レバ財政厅長ハ既ニ更迭ニ決定シ黒竜江省財政厅長董士
恩其後ヲ襲ヒ省長モ最近第四回目ノ辞表ヲ提出シタルヲ以
テ近ク更迭ヲ見ルヘク後任候補者トシテハ中央ヨリ孟秉初

（前吉林巡按使）張巡閱使ヨリ宋少濂ヲ擬シ又別ニ徐鼐霖
ヲ推スモノアリ陶吉長道尹モ多少色氣ヲ有シ居ルモ一方飽
督軍ハ奉天黒竜江兩省ニ於ケルト同シク自ラ省長ヲ兼任シ
度キ希望ヲ有シ目下暗闊状態ナリトノコトニ有之今後一両
月中ニハ文官側ニ多少ノ異動行ハルヘキ徵候相見エ居候從
テ旧来ヨリ勤続セル文武官ハ皆地位ノ安定ヲ得ス近來眞面
目ニ公務ニ鞅掌シ居ルモノハ甚少ク交渉事件ノ如キモ兎角
渋滞勝ナルヲ免カレス候

右更迭ニ關シ當方ニ執リ最影響ヲ受クルモノハ合弁事業ニ
有之當省官吏ニシテ該事業ニ關係セルモノ少ナカラサルコ
トハ御承知ノ通ナルニ付重ナル官吏ノ更迭ハ直チニ該事業
ノ消長ニ少カラサル影響ヲ來スヘキヲ以テ各事業共近來手
控ヘ居ルモノノ如ク見受ケラレ候

右御参考迄及報告候 敬具
写送附先 哈爾賓齊々哈爾長春奉天各領事給領事、在支那
公使

一四四三 十月一日 在奉天赤塚總領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

吉林軍ノ給料支払ニ關シ調査結果回電ノ件

第二九〇号

佐々木ヨリ第三九号

大臣へ転電アリタシ第九一八号

大臣發在奉天總領事宛第一五一号ニ閲シ

目下来哈中ノ吉林督軍顧問齋藤大佐ヲ介シテ取調ヘタル處
吉林省ノ地方費支弁ニ係ル軍隊ハ毎月給料ヲ正確ニ支払居
ルカ故ニ給料ノ不渡力事実ナリトセハソレハ中央政府直轄
ノ軍隊ナルヘキカトノコトナリ尤モ不穩ノ情況アリトテ殊
ニカ為ノ魂胆ニ非スマト観察スルモノアリ右北京へ転電済
更ニ其ノ声ヲ大ニセルハ北京政府カ急遽借款ヲ成立セシメ

一四四四 十月十一日 在長春村上領事ヨリ

内田外務大臣宛

一四四四 国慶節ニ於ケル學生連合運動会及講演会ノ中

止ニ閲スル件

發第一三四号

（十月二十日接受）

大正八年十月十一日

在長春

領事 村上義溫（印）

支那國慶紀念日ノ状況報告ノ件

昨十日國慶紀念日ヲトシ予テ当地支那官民ニ於テ学生聯合

運動会及口演会開催ノ計画アリ且ツ右口演会ハ官憲ニ於テ

汎ク言論ノ自由ヲ認メ可成制限セサル方針ナルヤ流伝被致

候ニ付小官ヨリ一応道尹側ニ対シ日支關係極メテ「デリケ

ート」ナル今日口演会ニ於テ煽動スルカ如キアランカ幸ニ

シテ親密ノ關係ニアル当地ニ於テ面白カラサル結果ヲ生ス

可キ旨ヲ以テ予メ注意ヲ喚起致置候処偶々北京政府ヨリ南

北妥協問題ハ停頓シ財政ハ益困難ニ陥リ内治外交多事ノ際

紀念日祝賀ノ各種催ハ中止スヘキ旨訓令アリタル趣ニテ旁

前記運動会及口演会ハ之ヲ中止シ当日ハ單ニ官民ノ重ナル

者及学生一同ヲ道尹公署前ニ集メ国旗ニ對シ敬礼ヲ行ヒタ

ル上國歌ヲ合唱アリタルノミニシテ其他何等公ノ催ヲモ為

サス市中極メテ静肅敬意ヲ表シ居リ候
右御参考迄及報告候 敬具
写送付先 在支公使奉天吉林總領事
機密第二七号

一四四五 十月十八日

在長春村上領事ヨリ

奉吉問題ノ前後陶吉長道尹ノ行動並経歴及対

日態度等ニ閲シ申進ノ件

（十月二十七日接受）

在長春

領事 村上義溫（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

陶道尹ノ張巡閱使及鮑督軍ニ對スル立場報告ノ件

今夏奉吉問題ノ前後陶吉長道尹兼交渉員ハ其立場最モ苦シ

キモノアリシニ不拘文官タル地位ト交渉員ヲ兼任スル關係

ヨリ巧ミニ問題ノ渦中ヨリ脱シ孟、鮑、孫等各督軍以下三

省ノ諸将来往ニ際シ常ニ道尹公署ヲ開放シテ其旅館ニ充テ

不偏不党ヲ表明スル等如才ナク各方面ニ應対シ來リタルカ
然モ彼ハ大正五年以来數年間當地ニ道尹トシテ孟恩遠ノ部

下タリシ関係上孟一派ノ失脚以来兔角ニ鮑ヨリ非直參者トシテ信ヲ措カレサリシヲ以テ何等カノ事蹟ヲ以テ鮑ノ歎心ヲ買ハシコトヲ努メ（涉外事務トシテハ差当リ暫定治安維持法ノ廃撤ヲ鮑着任後最初ノ訪問ニ於ケル御土産ト為サン

トシタルハ既ニ九月十六日付機密第二二号拙信中ニ報告）居タルカ過般同人上省後能ク鮑督軍ノ了解ヲ得更ニ鮑ノ旨ヲ享ケテ奉天ニ赴キ寛城子事件現場実見者トシテ張作霖ニ面会均シク巧ミニ取入リテ今ヤ一時噂セラレタル鮑張乖離

關係融和機關タルノ立場ヲ得極メテ安固ノ地位ヲ得タルモノノ如ク之ヲ同人帰任後ノ模様ニ察スルモ容易ニ看取スルヲ得候

因ミニ陶彬ハ（北京同文館出身浙江省紹興県人）日清戰爭勃發前東京ニ於テ公使館ニ留学生タリ引揚後外交部ニ在テ日本關係事務ヲ習ヒ日本語ヲ善クシ其後亦本邦ニ赴キタルコトアリ日露戰爭時代ヨリ引続キ奉天間島方面ニ地方官トシテ在任シ常ニ本邦人ニ接触シ居レル為メニヤ最モ日本ヲ解スル一人ニシテ神經質乍ラ性極メテ怜憫尤モ屢前言ヲ食ムノ癖アリ曩ニ延吉道尹トシテ間島ニ在リタル當時排日的態度ヲ持シ少カラス我方ヲ手古摺ラシタルヤノ趣ナルカ歲

ト共ニ漸次円熟シ來リ少クトモ最近我方ニ對スル態度寧ロ極メテ良好ト云フヲ得ヘク所謂隔意ナキ応酬ヲ標榜スルニ足リ申候

右何等御参考迄及報告候 敬具

写送附先 在支公使、奉天、吉林總領事

一四四六 十一月七日

在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛

機密公第五四号 張巡閱使ノ南征計画ニ閔スル情報報告ノ件

大正八年十一月七日

在奉天

総領事 赤塚正助（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

張巡閱使ノ南征計画情報ニ閔スル件 本件ニ閔シ當館警察署力接到セル情報為御参考別紙ノ通及

報告候條御查閱相成度此段申進候 敬具

本信写送附先 在支公使

（別 紙）

張巡閱使ノ南征計画ニ閔スル件

支那南北問題解決ニ閔シ張巡閱使ハ表面平和ニ解決ス キコトヲ主唱シ武力ニ訴フルコトハ列國ノ勸告モアルコトナレハ到底不可能ナルハ云フ迄モナク自分トシテモ元ヨリ平和ノ解決ヲ見ルヘキヲ信シ居ル旨唱ヘ居ルモ事実ハ然ラズ張巡閱使ハ武力ヲ用フルニ非レハ到底真ノ解決ヲ為ス能ハストノ意見ヲ有シ居ルモノノ如ク又北京政府ヨリモ過般來曲同豈張懷芝等ヲ派遣シ南方討伐ニ閔スル磋商ヲ為サシメタル結果愈武力解決ノコトニ意見一致シタルモノニシテ大体左ノ方略ニ依ルモノナリト云フ

一、北京政府ハ今回ノ南征ニ就テハ各督軍ヲシテ担任セシメ其ノ征略区域ハ先ツ征略セシ督軍ノ勢力圈内タルコトヲ承認シ南北統一完成ノ曉ニ於テ全領域ヲ整頓スヘク而シテ征南ニ最モ功績アルモノヲ副給統ニ薦任スル条件ノ下ニ軍費ハ一切負担セス討伐派遣督軍ニ籌弁スヘキ旨ノ内意ヲ伝達セルニ依リ張巡閱使ハ之カ出兵準備ニ閔シ鮑孫兩督軍カ之ヲ援助スルヤ否ヤノ意嚮ヲ確メタルニ兩督軍共同意セルニヨリ愈南征ノコトニ決定セルモ征南前進行路ハ山西鄭州經由湖南漢口經由江蘇浦江經由ノ三筋ノ進路アリテ此ノ進路ノ如何ニヨリ攻略上多大ノ差異ヲ來

一四四七 十一月二十四日

在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛

張作霖ノ鄉老招待会ノ目的及演説概要報告ノ件

件

公第四四七号

（十一月二十九日接受）

大正八年十一月二十四日

在奉天

総領事 赤塚正助（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

張巡閲使ノ郷老招待会席上ニ於ケル演説ニ閔シ報

告ノ件

張巡閲使ハ今回特ニ三万元ノ費用ヲ投シ奉天省内各県ヨリ年齢五十歳以上ニシテ地方ニ信望ヲ有スル郷老六名或ハ四名宛ラ選出来奉セシメタルカ其目的トスル所ハ郷老ヲ懷撫シテ自己ノ信任ヲ博セントノ意思ニ出テタルハ勿論ナルト共ニ又一面自己経歴ノ欠陥ヲ掩飾シ年壯無頼ノ徒カ好テ綠林ニ投セントスル無謀ナル傾向ヲ戒メタルモノト云フヘク而シテ之カ招待ヲ受ケタル省内各県ノ郷老中安岡撫松県等ノ如キ辺陬ナル數县ヲ除ク外孰レモ前後來奉シ其数四百五十名ニ達シタルヲ以テ本月十四日之ヲ省長公署ニ招宴シ各要路文武官吏及省議會議員等ヲ陪席セシメ主客五百五十余名ニ及ヒ頗ル盛会ヲ極メタリシカ同席上ニ於テ張巡閲使力

為シタル演説概要左ノ通り

張巡閲使演説概要

鄉間動モスレハ本官ヲ目シテ綠林出身ノ如ク吹聴シ居レルヤニ聞及ヘルカ這ハ謂ナキノ甚タシキモノニシテ本官ノ大ニ不本意トスル所ナリ嘗テ年少時代當口ニ於テ家兄張作福カ地方紳士央某ノ為ニ凌辱ヲ蒙リタル一事件ヨリ義憤雪辱ノ舉ニ出テタル為メ家兄諸共馬賊ノ罪名ヲ以テ廣寧県ニ監禁投獄セラレタルモ程無ク事実明白トナルニ及ヒテ青天白日ノ身ト為レリ後再ヒ發審處ヨリ召喚セラレ暫ク承德県ニ監禁投獄セラレタルノ事実アルモ概シテ冤罪ニシテ心中何等疚シキ所無シ其後義和團蜂起ニ際シ增祺將軍遁走後地方ノ安寧維持ヲ目的トシテ翰林學士故劉某ノ提唱ニ基キ自ラ一歛ニ付五十仙ノ歛捐ヲ代徵シテ同志ヲ糾合シ郷勇ヲ養ヒ秩序維持ニ尽ス所アリシカ間モ無ク增祺將軍帰任シタルヲ以テ劉某ハ同將軍ノ諒解ヲ得テ各所ニ割拠セル郷勇保險團ヲ招撫スルコトニ協定シタリ是ヲ以テ余ハ一當ノ部下ヲ率ヒテ時ノ新民知府增韜氏ノ許ニ走リ官兵トナリ爾來一民意ヲ以テ心トナシ諸政ヲ遂行シ以テ今日ニ至リシコトハ諸老ノ夙ニ公認スル所ナルヘンシ去レハ此際誤伝ニ基因スル惡観

念ヲ一掃シ本官ニ対シ十分輔佐ノ誠意ヲ尽サレンコトヲ希望スル次第ナリ又本官カ綠林ヨリ出テテ一躍頭職ヲ贏得タリト誤想シ其頻卑ニ倣ヒアワヨクハ團長旅長等ノ要職ヲ獲得セントノ野望ヲ抱キ好シテ綠林ニ走ル者多数ナルモ今後斯ル徒輩ハ飽迄モ追捕嚴刑ニ処シ一步モ仮借スル所ナカル

ヘシサレハ諸老ニ於テモ本官ノ意ヲ体シ此種無頼ノ徒ニ対シテハ須ラク警戒ヲ厳ニシ苟モ庇護結托スルコト無ク専ラ地方ノ安寧維持ニ努メ十分自治ノ実績ヲ挙ケラレンコトヲ希望シ已マサル次第ナリ

又地方ノ振興ニ關シテハ進徳修業ヲ旨トシ能ク世界ノ大勢

ニ鑑ミ通融以テ機ノ宜シキヲ制シ例ヘハ高梁ニ換ユルニ棉花煙草等ノ栽培ヲ以テシ外國品ノ輸入ヲ抑制シ自國ノ利益ヲ擁護スルニアリ又必シモ洋布紙煙ニ賴ラストモ土産品ニテ満足スルノ覚悟無カルヘカラス人動モスレハ本官ヲ始

メ省大臣ノ起臥飲食ハ総テ栄耀榮華ノ極ノ如ク思惟スル傾

アルモ事実ハ決シテ然ラス現ニ自家財産トシテ僅ニ壹百余

万元ヲ有スルニ過キス之トテ皆商業上ヨリ得タルモノニシテ或ハ民ヲ苦シメ或ハ官ヲ壳リテ得タル不義ノ蓄財ニ非サ

ルコトヲ告白スル次第ナリ元来蓄財ハ本官ノ敢テ望ム所ニ

アラス只念トスル所ハ濟世利民アルノミ此点ハ特ニ誤解ナキ様切望ス云々

右畢リテ郷老ヨリ巡閲使頌徳碑建立ノ發議アリシモ之ニ対シ巡閲使ハ時期尚早ヲ唱ヘテ曰ク且下未夕諸政緒ニ就カス何等ノ功績ニ值スルモノ無キヲ愧ツシテ此際之ヲ辭退スルコトトシ今後更ニ三年ヲ経過シ若シ治績大ニ挙リ自他相許スノ域ニ到達シタル暁ハ再ヒ諸老ヲ一堂ニ会シ看劇ノ振舞ヲ為サン其時始メテ諸老ノ厚意ヲ嘉納スルコトアルヘシトノ謙遜辞ヲ以テ之ニ応ヘタリト云フ

右為御参考及報告候 敬具

本信写送附先 在支公使 関東長官

一四四八 十二月四日 在チチハル山嶺領事代理ヨリ

内田外務大臣宛

東三省督軍會議ニ閔スル件

（十二月十一日接受）

本第三〇七号 大正八年十二月四日

在齊齊哈爾

領事代理 山崎誠一郎（印）

一四 中国内政関係雑件（附）一四四九

一五六四

今回奉天ニ於テ開催シタル東三省督軍會議ノ一協議事項ト

シテ牒報者ノ報告ニ依レハ張作霖ハ滿蒙統一ノ野心ヲ抱キ

居ル趣ニテ其第一歩トシテ吳俊陞ヲ東北籌辯使ニ任命シ專

ラ露國々境方面ノ鎮守ヲ司ラシムル件表面軍隊ノ裁節ヲ標

榜シテ東三省清鄉督弁（馬賊等ヲ防備スル壯丁ノ總指揮官）

ニ王順存ヲ任命スルコト及外蒙古ノ現状ニ鑑ミ相當ノ機会

ニ於テ呼倫貝爾政厅ノ各種稅金ノ取扱鉱業ノ改良及拡張牧

畜業ノ拡張金融機関トスヘキ官銀行ヲ設置シ紙幣ヲ發行セ

シメントスル等ノ諸種ノ權利ヲ回収スル計画ヲ立案シ中央

政府ニ対シ其指令ヲ請ヒタリト云フ

右御参考迄報告申進候 敬具

本信写送付先 在支公使 在満洲里永松警部

一四四九 十二月六日 在吉林森田總領事ヨリ
内田外務大臣宛

徐鼐霖ノ吉林省長就任及施政方針並将来ノ見

公第二四八号

（十二月十五日接受）

大正八年十二月六日

在吉林

曩ニ吉林省長ニ任命セラレタル徐鼐霖ハ京奉ノ要務ヲ終ヘ
予定ヨリ少シク遅レテ本月三日夜家族同伴当地ニ着任セリ
駅頭ニハ鮑督軍以下文武官及地方紳士等ノ迎接スルモノニ
百名許徐ハ頗爾得意ノ心アリ五日本官ヲ訪問シテ新任ノ挨
拶ヲ為シタル後自分ハ吉林人ナレハ吉林ノ為ニ尽スハ勿論
日支両国友隣ノ親誼ハ何處迄モ保持シ事ニ當リテハ和平ヲ
旨トセソコトヲ希望スト述ヘ吉林財政救済法トシテハ今回
奉天會議ノ結果三省銀行（公第二三一号参照）ヲ設立スル
コトトナリ之カ資本金ハ現貨式千万円（内一千万円ハ官股
一千万円ハ商股）トシテ三省官商両界ニ於テ籌備スル筈ナ
リ而シテ該銀行ハ現大洋同様価格ノ大洋票ヲ發行シ急遽旧
票ヲ回収スルコトハ實際至難ナルヲ以テ旧大洋小洋票及官
帖ノ順序ニ依リ少額宛両三年間ニ回収シ以テ三省幣制ノ統
一ヲ實現セントスル計画ナリ次ニ軍費節減ハ可成急速実行
シ財政ノ余裕ヲ得テ然ル後各種事業ノ振興ニ企及スヘク而
シテ馬賊討伐ハ鮑督軍ニ於テ嚴重決行スルコトトナリ居リ

以テ地方農民生活安易ヲ期スルハ蓋シ幣制統一以上刻下ノ

急務タルヲ思フ董財政局長ハ今回愈々浜江道尹ニ転シ後任

ハ黒竜江省財政府総務科長蒼耀璫（吉林人）ト決シ既ニ大

総統令ノ發布アリ云々ト語リタルカ徐ノ省長タルハ生命ハ

極メテ短期ナルヘシトノ説専ラ官場ニ伝ヘラレツツアルカ

督軍府内ノ某消息通力漏シタル所ニ依レハ徐ノ今回省長任

命ヲ見タルハ其運動宜シキヲ得タルニ依ルモ又全く吉奉問

題ノ產物トシテ鮑督軍力自己ノ主張ヲ曲ケテ一時省長ノ椅

子ヲ与ヘタルニ過キスト云ヘルカ之ヲ四囲ノ状況ニ徵スル

ニ徐省長ノ任期ハ畢竟長キモ半年ヲ超ヘサルヘシト観測セ

ラル節アリ尚徐省長ハ本日ヨリ開会スヘキ省議会ニ臨ミ

新任挨拶及其政綱ヲ演説シタリト云フ

右御参考迄ニ及報告候 敬具

右送付先 在支公使

一四五〇 十二月十七日 在チハル山嶺領事代理ヨリ
（十二月二十七日接受）

本第三一五号 大正八年十二月十七日

一四五〇 中国内政関係雑件（附）一四五〇

外務大臣子爵 内田康哉殿

徐省長着任報告ノ件

總領事 森田寛藏（印）

本信写送付先 在支公使 在満洲里永松警部
左記

一、礦務トシテハ吉林ノ金鉱名実共ニ最モ重要ナレハ之
ヲ回収シ鉱業条例ニ依リ局ヲ設ケテ鉱税ヲ徵收スルコト

二、森林トシテハ内興安嶺ニ最モ豊富ナル森林地帶亘直シ

一五四五 中国内政関係雑件（附）一四五五

一五六五

久シク外人ノ観覧スル所ナルヲ以テ此機ニ乘シテ森林局

ヲ設ケ外人ノ私採ヲ禁止スルコト

三、牧畜ノ繁殖ハ税源ニ大關係ヲ有スルコト勿論同地区ノ

牛羊馬匹ハ全国ニ冠タリ然ルニ民国元年税局ヲ撤退シ爾

來無税ノ状態ナルヲ以テ速ニ税局ヲ設置シ徵税宜シキヲ

得ハ優ニ大洋百万元ノ歳入アルヘキヲ以テ蒙古人ノ生計

ニ余裕ヲ与フルコトヲ得ヘシ

四、呼倫貝爾政庁管内ハ從来露貨ヲ使用シ居リタルモ露貨

ノ暴落セシ現状ニ鑑ミ速ニ広信銀号ノ分号ヲ設ケ官帖又

ハ小洋票ヲ發行シ蒙古人ヲシテ国家紙幣ノ重要ナルコト

ヲ知悉セシムヘシト

一四五 十二月二十三日

在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

セミヨノフ満洲里派兵ノ情報ニ關シ取調ノ為

吳俊等陞同地ニ向ヒタル件
吳俊等陞同地ニ向ヒタル件

第三九〇号

齊々哈爾発本官宛電報第三〇号

外務大臣へ転電アリタシ

第一四八号

往電第一四七号ニ關シ支那側ニ於テハ「セミヨノフ」ハ兵

ノ一部ヲ既ニ満洲里局ニ派シタリトノ情報アリタル趣ニシ

テ右ノ実否取調ヘト東北邊防總司令部出張所ヲ海拉爾ニ新

設スルコト並邊防兵配置ニ關シ實地見聞ノ為メ吳俊陞總司

令、定參謀長、張旅長ハ二十二日当地ヲ出發海拉爾満洲里

ヘ向ヒタリ

北京、奉天、哈爾賓、松平、永松、古沢、加藤大使へ転電

濟ミ

日本外交文書 大正八年 第二冊 下巻 終